

千葉県袖ヶ浦市

ちゅう ろ
中六遺跡第18次発掘調査報告書

－ 蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査 －

2014

ス エ ヒ ロ 建 設
袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、房総半島の東京湾側中央部に位置し、小櫃川がもたらす肥沃な土地と豊饒な山海の幸に恵まれ、太古より多くの人々が生活を営み、歴史や文化を育んできました。

今回報告する中六遺跡は、蔵波地区に所在します。これまでに何度も発掘調査が行われた結果、地域を代表する縄文時代早期の遺跡であるとともに、古墳時代前期の集落遺跡であることがわかっています。いにしえの人びとが大勢暮らした台地の上は、現在は近くに多くの商業施設が並び、通勤通学にも便利な場所として、袖ヶ浦市内でも人気の住宅地となっています。

時代が変わっても、土地の利用方法は不思議と変わることなく続くものです。何千年という時が流れ、住む人びとは世代交代を繰り返しても、土地の持つ記憶は薄れることなく、今日も新たな歴史を刻み続けています。

本書を手にする市民の皆様が、これを契機に埋蔵文化財の保護・活用、その重要性について、理解と関心を深めていただければ幸いに存じます。

最後に、発掘調査の実施から発掘調査報告書の刊行にいたるまでご指導・ご協力をいただきましたスエヒロ建設株式会社、千葉県教育委員会文化財課、株式会社地域文化財研究所をはじめ、関係者の皆様に対して心から厚くお礼申し上げます。

平成26年2月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 川島 悟

例 言

1. 本書は蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本書に収録した遺跡は、袖ヶ浦市蔵波字中六 1,259 番地 3 他に所在する中六遺跡（千葉県遺跡分布地図 No. 50、調査コードは SG013）である。
3. 発掘調査は平成 25 年 1 月 17 日から同年 3 月 6 日までスエヒロ建設株式会社から委託を受けた株式会社地域文化財研究所が、袖ヶ浦市教育委員会の指導のもとに行った。整理作業は平成 25 年 5 月 8 日から 8 月 31 日まで袖ヶ浦市教育委員会が行った。
4. 発掘調査は、株式会社地域文化財研究所 小川将之が行い、整理作業は、袖ヶ浦市教育委員会生涯学習課副主幹 桐村久美子が行った。
5. 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第 1 図 国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図 「奈良輪」「姉崎」「木更津」「上総横田」
第 2・3 図 袖ヶ浦市発行 2,500 分の 1 地形図 No. 13・14・18・19
6. 今回の調査に伴う記録図書類や写真類及び出土遺物は、袖ヶ浦市教育委員会で保管している。
7. 挿図の縮尺は各図に明記した。発掘調査における基準点の設置は世界測地系に即し、方位は座標北とした。また標高値の単位は cm までとした。
8. 特に注釈がない場合、遺構実測図中のアミカケは焼土を表し、遺物実測図中のアミカケは赤彩を表している。

目 次

序文

例言

I 序 章 調査概要	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査組織	1
3. 遺跡の立地と周辺の遺跡	3
4. 調査グリッドの設定	3
5. 調査及び整理作業の方法	5
6. 調査の沿革	5
II 検出された遺構と遺物	9
1. 調査概要	9
2. 調査結果	9
3. 縄文時代	9
4. 古墳時代	9
5. 遺構外出土遺物	14
III 総 括	29
1. 縄文時代	29
2. 古墳時代	29

挿 図 目 次

第1図 周辺の遺跡	第10図 古墳時代竪穴住居実測図 SI051・SI052
第2図 中六遺跡グリッド区割図	第11図 古墳時代竪穴住居実測図 SI053・SI054
第3図 中六遺跡調査区位置図	第12図 古墳時代竪穴住居実測図 SI055
第4図 中六遺跡第18次調査全体図	第13図 古墳時代竪穴住居実測図 SI056
第5図 縄文時代遺構実測図 SK150	第14図 古墳時代竪穴住居実測図 SI057・SI0586
第6図 古墳時代竪穴住居実測図 SI047	第15図 古墳時代竪穴住居実測図 SI059
第7図 古墳時代竪穴住居実測図 SI048(1)	第16図 古墳時代竪穴住居実測図 SI060
第8図 古墳時代竪穴住居実測図 SI048(2)・SI049	第17図 竪穴住居出土遺物実測図(1)
第9図 古墳時代竪穴住居実測図 SI050	第18図 竪穴住居出土遺物実測図(2)

図 版 目 次

図版1
図版2
図版3
図版4
図版5
図版6

表 目 次

表1 竪穴住居出土遺物観察表

I 序 章

1. 調査に至る経緯

平成24年6月29日付けで、スエヒロ建設株式会社 代表取締役 蛭田憲広から袖ヶ浦市蔵波字中六1,259番地3他における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて問い合わせがあり、平成24年7月6日付けで袖教生第1022号にて、問い合わせ地は周知の埋蔵文化財包蔵地である中六遺跡内にあたる旨を回答した。

その後、問い合わせ者と協議を行った結果、記録保存の措置を講ずるとの結論に達し、対象面積5,133㎡のうち449㎡の確認調査を実施し、平成24年12月11日付け袖教生第2430号にて確認調査の結果を通知した。その結果を受けて確認調査範囲1,200㎡の本調査を実施することとなった。

発掘調査は市教育委員会における実施が困難であったため、協議の結果、民間調査組織を導入することとなり、「行政目的で行う千葉県内の埋蔵文化財の発掘調査に係る民間調査組織の取り扱いに関する基準」第5条第1項に基づき、平成24年12月17日、スエヒロ建設株式会社・株式会社地域文化財研究所・袖ヶ浦市教育委員会の三者による協定を締結した。同日、スエヒロ建設株式会社と株式会社地域文化財研究所において発掘調査業務委託契約が締結され、袖ヶ浦市教育委員会の指導の下、調査を実施した。

整理作業は袖ヶ浦市教育委員会が行った。

2. 調査組織

平成24年度（発掘調査）

袖ヶ浦市教育委員会

教育長	川島 悟	教育部長	茂木 好明
教育部次長	篠原 幸一	教育部参事兼生涯学習課長	井口 崇
生涯学習課文化振興班			
班 長	西原 崇浩（調査指導）		
主 査	桐村 久美子		
主任主事	田中 大介		
主 事	前田 雅之		

株式会社地域文化財研究所 小川 将之（発掘調査担当）

平成25年度（整理作業）

袖ヶ浦市教育委員会

教育長	川島 悟	教育部長	蔭山 弘
教育部次長	鈴木 和博	教育部参事兼生涯学習課長	井口 崇
生涯学習課文化振興班			
副課長兼班長	西原 崇浩		
副主幹	桐村 久美子（整理作業担当）		
副主査	田中 大介・前田 雅之		



3. 遺跡の立地と周辺の遺跡

千葉県袖ヶ浦市は、千葉県の東京湾沿岸のほぼ中央にあり、茨城県南部から西上総地方のほぼ全域まで広がる下総台地の南縁部に位置する。

袖ヶ浦市の台地は、北を養老川、南を小櫃川によって開析されることにより形成された台地で、袖ヶ浦台地と呼称されている。また、小櫃川によって形成された沖積地の下流域は、肥沃な低地として発達し、台地上の密度の濃い遺跡群を形成する要因ともなっている。

中六遺跡は袖ヶ浦台地の中央部に位置し、標高40～45mほどの平坦地に展開している。眼下には蔵波川を臨み、水源として利用されたと考えられる。また、海岸線までは2kmほどと、海産資源の利用にも適している。

中六遺跡は現在までの調査により、旧石器～平安時代に至る遺物・遺構が検出されている。

中六遺跡の旧石器時代石器はⅢ層下部～Ⅵ層上面から剥片が出土している。中六遺跡と同じ台地上にある百々目木B遺跡において、Ⅲ層下部～Ⅳ層の限られた範囲に2,000点以上の石器が出土している。

縄文時代早・前期の遺跡には、打越岱遺跡・角山遺跡・伊丹山遺跡などがあげられる。打越岱遺跡では、中六遺跡同様に条痕文期の炉穴を検出し、また条痕文期の竪穴住居も見つかっているため、中六遺跡と併行して存在したと考えられている。中六遺跡から500m南西に位置する角山遺跡・伊丹山遺跡では撚糸文・条痕文期の炉穴を検出しており、中六遺跡との関係が推測される。

縄文時代中～晩期になると、山野貝塚・宮ノ越貝塚などの後期大型貝塚が、中六遺跡の約1km南に形成されている。中六遺跡でも僅かではあるが、後期縄文時代土器が出土している。

弥生時代後期から古墳時代の集落遺跡は、上大城遺跡・美生遺跡群・山王辺田遺跡・台山遺跡などがあげられる。上大城遺跡は、古墳時代前期の竪穴住居が43軒、方形周溝墓を6基検出しており、出土遺物には東海系や畿内系など外来系の要素を含む資料が散見できる。美生遺跡群は、遺跡全体では119軒、第1・6地点でそれぞれ50軒前後の古墳時代前期竪穴住居を検出しており、周辺における拠点的な集落であったと考えられる。山王辺田遺跡・台山遺跡は中六遺跡の3km西に位置し、いずれも50軒を超える古墳時代前期竪穴住居を検出している。特に台山遺跡は道路幅のみの調査であるにもかかわらず、112軒の古墳時代前期竪穴住居を検出し、住居跡の重複が著しい。

また、古墳時代前期の古墳では、神田古墳群・山王辺田古墳・山谷古墳などがあげられる。神田1・2号墳と山王辺田2号墳は前方後方墳、山谷古墳は前方後円墳であるが、いずれも古墳出現期の古墳として注目されており、特に神田古墳群は中六遺跡から北へ500m程度という距離に近接している。

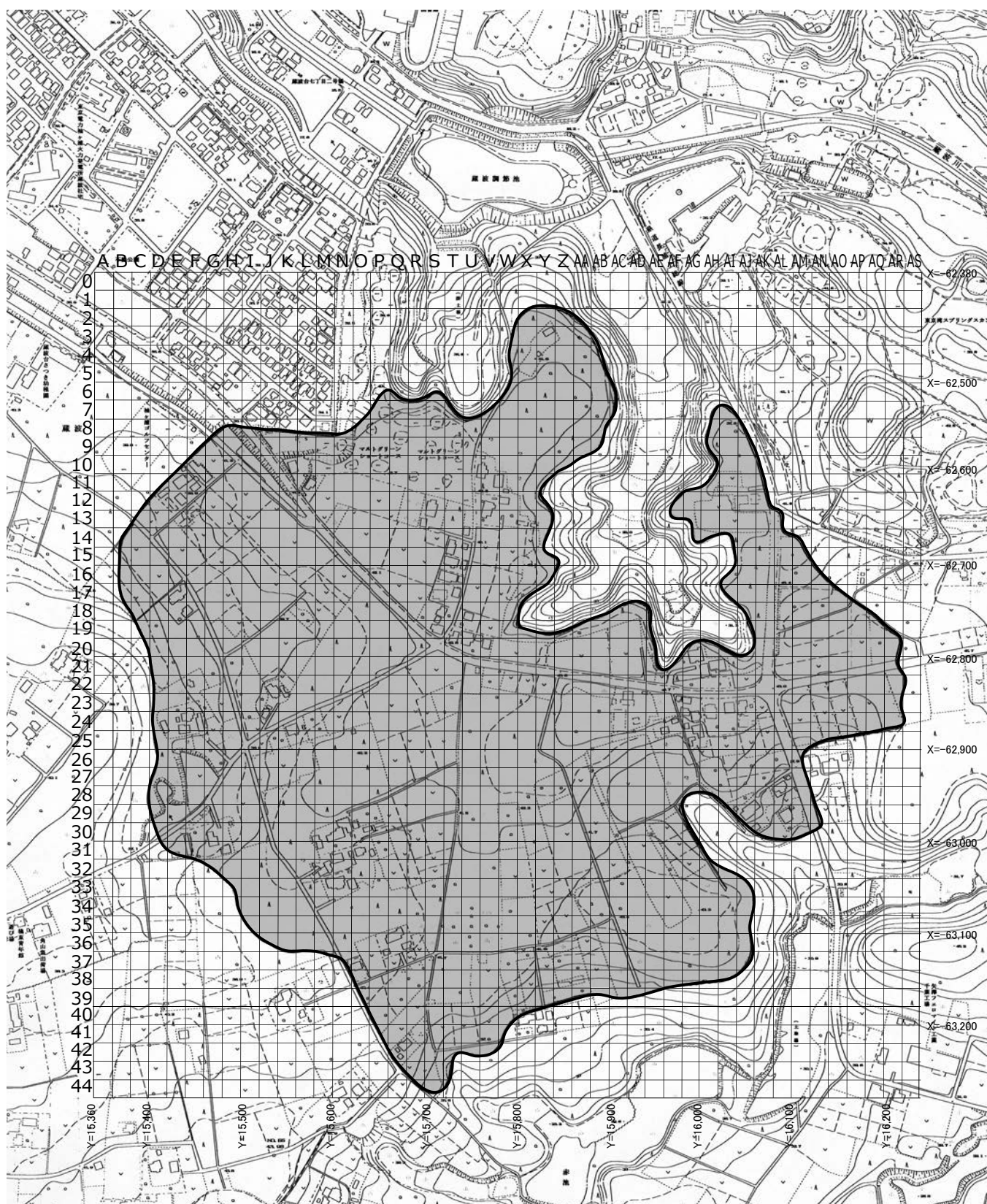
古墳時代中期の遺跡は周辺では少なくなるが、美生遺跡第1地点では引き続き集落が営まれ、弥生時代から古墳時代中期の竪穴住居67軒を検出している根崎遺跡では、5軒であるが中期の住居も見つかっている。うち鏡片垂飾品を検出したSI015からは、大量の土器が出土しており、当地域の古墳時代中期の土器編年を考える上で指標となっている。

奈良・平安時代になると、中六遺跡周辺では遺跡が少なくなるが、上大城遺跡・神田遺跡・雷塚遺跡などでは集落が確認されている。上大城遺跡では、奈良・平安時代の竪穴住居14軒と掘立柱建物6棟を検出しているほか、瓦堂・浄瓶・灯明皿・香炉蓋など仏教色の強い遺物が多く見つかっており、村落内寺院の存在が示唆されている。当該時期の集落は、東側の内陸部に顕著に見られるようになり、村落内寺院を有する大集落である永吉台遺跡群遠寺原遺跡は、その代表格といえる。

4. 調査グリッドの設定

中六遺跡の調査を実施するにあたっては、第11次調査時に設定したグリッドを踏襲し、遺跡全体を包括するように世界測地系座標IX系に基づく基準点測量によって、20m方眼による調査グリッドを設定した。

グリッドは、20m四方の大グリッドを東西900m、南北900mの範囲で区割りをを行い、東西方向の45区分を



第2図 中六遺跡グリッド区割図 (1:6,000)

A～Z、AA～AS、南北方向の45区画分を1～45と呼称した。さらに20m四方の大グッドを2×2mの小グリッドに区分けし、北西隅から00・01・02・03……北東隅を09、南西隅を90、南東隅を99に割り振り、100区に分割した。

なお、グリッドの基点となるA1-00（A1-a）グリッドは、世界測地系座標IX系でX=-62,380、Y=15,360にあたる。

5. 調査及び整理作業の方法

（1）発掘調査

遺構の図面は20分の1縮尺を基本とし、平面図は平板測量により作成した。また、遺物の取り上げに際しても基本的に同じ縮尺で行い、遺物の詳細図や遺構によっては、適宜状況に応じて作図している。遺構内から出土した遺物についても、20分の1縮尺による平板測量にて取り上げた。

遺構には、前回までの調査から連続する3桁の一連の番号を付し、番号の前に遺構の略号として、堅穴住居をSI、炉穴や土坑をSKとし、3桁の数字で遺構内容を遺物に注記を行った（例 SI001）。

遺構から出土した遺物の中で出土位置や状況を記録したものについては、4桁の数字を付して取り上げた。これと別に、一括して取り上げたものについては、おおまかな出土位置や状況を台帳に記録し、1番から一連の数字を付している。したがって、遺物に記載された注記と遺物台帳を照合しなければ出土状況を把握できないようになっている。

出土遺物への注記方法は、次のとおりである。遺跡コード（調査地点）-遺構名-遺物番号（一括取り上げ数字）を記した。（例 SG011-SI001-0001又は1）

発掘調査の写真撮影は、中型カメラをメインカメラとし、フィルムは白黒6×7判を使用した。サブカメラは35mm小型カメラを使用し、フィルムは白黒とカラーリバーサルを用いた。また、補助的にデジタルカメラも使用している。

（2）整理作業

土器の修復には、安定性や強度等を考慮し、歯科用石膏を使用した。

土器実測は、手測り実測を行った。遺構図面及び遺物実測図は、Adobe Illustrator を用いてデジタルトレースを行った。

遺物の写真撮影は、デジタルカメラを使用した。

（3）報告書の作成

本書の編集には、Adobe InDesign を使用した。

6. 調査の沿革

第1次調査（昭和61年度、君津郡市文化財センター）

検出した遺構：旧石器時代包含層2か所、縄文時代早期陥穴4基、道路2条

第2～5次調査（昭和62～平成3年度、君津郡市文化財センター）

検出した遺構：縄文時代早期炉穴14基・土坑46基、古墳時代堅穴住居9軒、道路11条

第6次調査（平成8・9年度、千葉県文化財センター）

検出した遺構：旧石器包含層2か所、縄文時代土坑2基、弥生～古墳時代溝状遺構5条・土坑4基、奈良・平安時代道路1条

第7次調査（平成11年度、君津郡市文化財センター）

検出した遺構：旧石器時代石器集中地点1か所、縄文時代早期炉穴4基、弥生時代方形周溝墓1基、

溝状遺構 2 条、道路 1 条、土坑16基

第 8 次調査（平成17年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：土坑 1 基、円墳（円形周溝状遺構） 1 基、道路 1 条

第 9 次調査（平成18年度、袖ヶ浦市教育委員会）確認調査

検出した遺構：土坑 7 基

第10次調査（平成19年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：古墳時代前期竪穴住居 1 軒、陥穴 1 基、平安時代火葬墓 2 基、土坑 9 基

第11次調査（平成20年度、袖ヶ浦市教育委員会）確認調査

検出した遺構：縄文時代早期陥穴 4 基、炉穴15基、土坑17基、縄文時代早期遺物包含層 2 か所（2,400㎡）

縄文時代前期竪穴住居 2 軒、古墳時代前期竪穴住居14軒、古墳 1 基

古墳時代溝状遺構 2 条

第12次調査（平成20・21年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：縄文時代早期炉穴237基、陥穴 6 基、土坑27基、古墳時代前期竪穴住居26軒

円墳 1 基、方墳 2 基、古墳時代後期土坑墓 1 基

第13次調査（平成23年度、袖ヶ浦市教育委員会）確認調査

検出した遺構：古墳時代前期竪穴住居 5 軒

第14次調査（平成23年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：古墳時代前期竪穴住居3軒、溝状遺構 2 条

第15次調査（平成24年度、袖ヶ浦市教育委員会）確認調査

検出した遺構：縄文時代早期炉穴 8 基、古墳時代前期竪穴住居 6 軒、縄文時代早期遺物包含層 1 か所

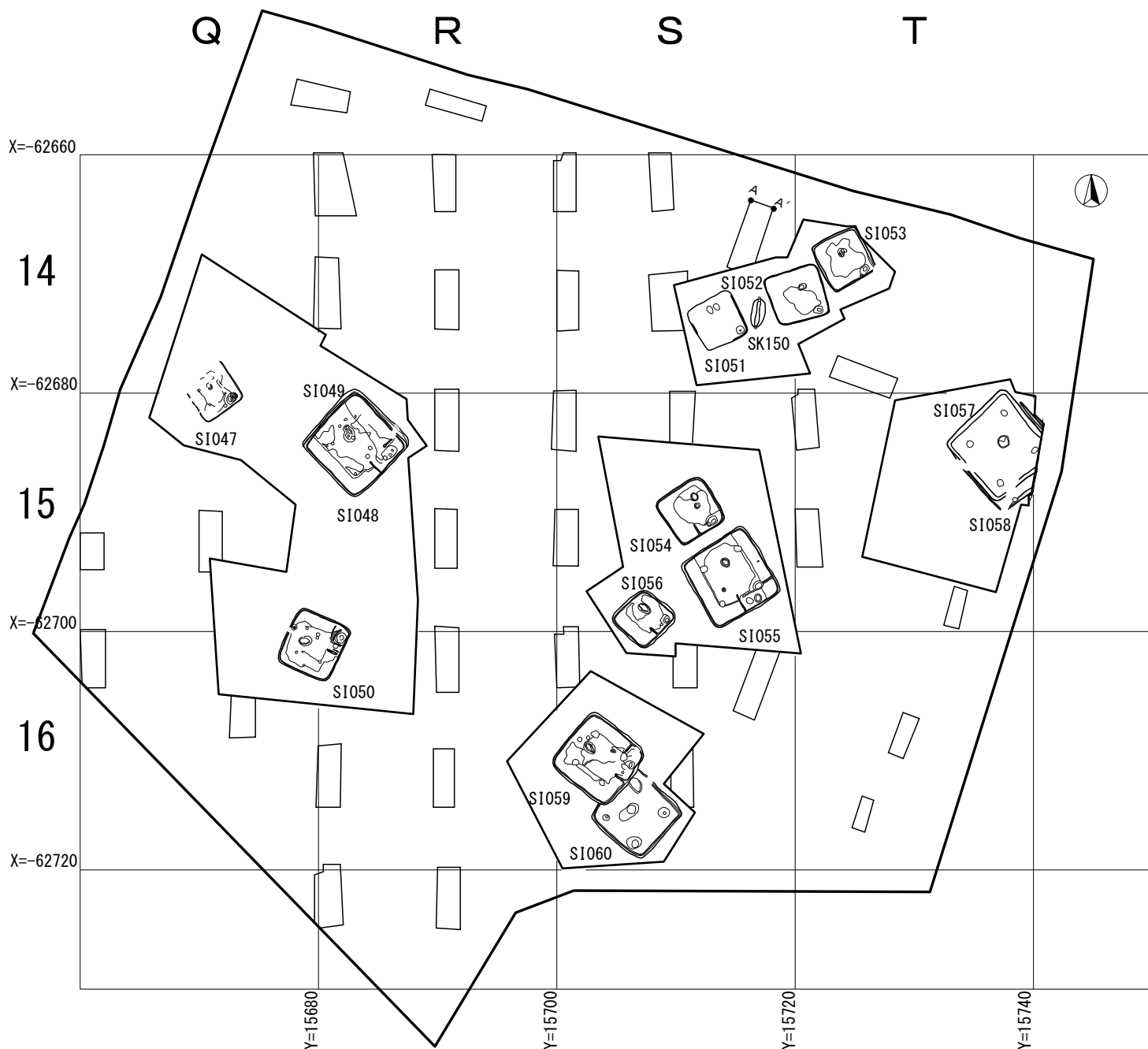
第16次調査（平成24年度、袖ヶ浦市教育委員会）

検出した遺構：縄文時代早期炉穴 7 基、土坑31基、古墳時代前期竪穴住居 7 軒、掘立柱建物跡 1 棟（竪穴住居の可能性あり）、柵列 1 列、縄文時代早期遺物包含層 1 か所

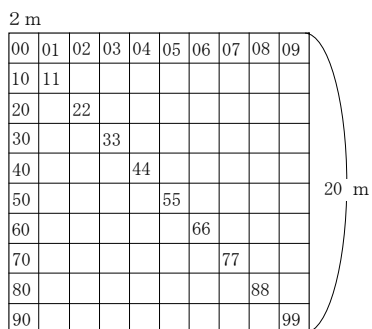
第17次調査（平成24年度、袖ヶ浦市教育委員会）確認調査

検出した遺構：縄文時代早期炉穴 1 基、古墳時代前期竪穴住居 8 軒

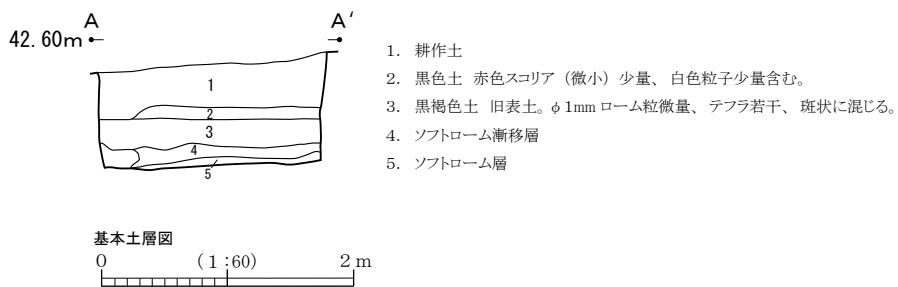
以上、第16次までの調査で縄文時代早期炉穴262基、陥穴11基、土坑103基、古墳時代前期竪穴住居46軒、方形周溝墓 1 基、円墳 1 基、方墳 2 基、円形周溝状遺構 1 基、古墳時代後期土坑墓 1 基、火葬墓 2 基、時期不明土坑33基、溝13条、道路10条、掘立柱建物跡 1 棟（竪穴住居の可能性あり）、柵列 1 列、縄文時代早期遺物包含層 1 か所を検出している。



小グリッド配置図



基本土層図



第4図 中六遺跡第18次調査全体図 (1:500)

Ⅱ 検出された遺構と遺物

1. 調査概要

中六遺跡第17次調査の確認調査結果に基づき、事業対象地5,133㎡のうち1,200㎡の本調査を実施した。表土除去はバックホウを使用し、遺構確認作業は人力にて行った。遺構確認面はソフトローム漸移層とした。

2. 調査結果

縄文時代早期の陥穴を1基、古墳時代前期の竪穴住居を14軒検出した。

3. 縄文時代

縄文時代の遺構は陥穴1基を検出したのみである。出土遺物もなく詳細な時期等は不明であるが、これまでの調査結果より、縄文時代早期と考える。

SK150（第5図・図版1）

位置：S14-68グリッド 規模：長軸2.40m、短軸1.13m、深さ1.48m 平面形態：長楕円形

主軸方位：N-8°-E 重複関係：なし。

陥穴。底面は細長く、長軸両端がオーバーハングする。長軸両端以外の壁は垂直に立ち上がり、中段から大きく開口し、短軸方向の断面は漏斗状を呈する。出土遺物はなし。

4. 古墳時代

古墳時代前期の竪穴住居は、14軒検出した。平面形態はすべて隅丸方形で、主軸よりも副軸が長い横長のタイプも存在した。

SI047（第6図・図版1）

位置：Q14-95グリッド 規模：主軸3.82m、副軸3.92m、壁高（北西）不明・（北東）0.11m・（南西）0.02m・（南東）0.10m 主軸方位：N-37°-W 重複関係：なし。

構造等：遺構のほぼ全面に耕作による攪乱を受け、北西側の壁は消滅している。床面は中央部に硬質面が広がる。炉は、楕円形を呈し、中央部が1か所被熱する。長軸0.58m・短軸0.38m。ピットは、柱穴4（P1～P4）、梯子穴（P5）、貯蔵穴（P6）を検出し、壁溝は検出できなかった。P1は直径0.40m・深さ0.48m、P2は直径0.36m・深さ0.54m、P3は直径0.50m・深さ0.50m、P4は直径0.42m・深さ0.54m。P5は直径0.44m・深さ0.20m。P6は楕円形を呈し、長軸1.00m・短軸0.72m・深さ0.24m。

東側コーナー部分から炭化物がまとまって検出した。

出土遺物（第17図・図版4）：貯蔵穴（P6）から特に多くの遺物が出土している。第17図の- SI047-2・4・5・6は貯蔵穴覆土中から出土している。5の壺は底部に小さな孔があけてあり、胴部にも故意にあけた孔がある。6の広口壺は貯蔵穴の中で、底部を上にした状態で出土した。出土遺物の総量は、縄文土器5.59g、弥生土器6.27g、古墳時代土師器4,726.62g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、壺、広口壺、高坏・器台、埴・鉢と続く。

SI048（第7図・図版1）

位置：R15-21グリッド 規模：主軸6.80m、副軸6.60m、壁高（北西）0.36m・（北東）0.32m・（南西）0.28m・

(南東) 0.28m 主軸方位：N-44°-W 重複関係：SI049を切る。

構造等：壁溝が全周し、北東壁から南西壁にかけて、南東壁中央の一部を除きベッド状遺構を検出した。床の硬質面は、北東側ベッドの上と南西側ベッドの内側の床面に広がる。床面からの壁溝の深さは0.04～0.07m。炉は、不整形で、3か所被熱がみられ、長軸0.58m・短軸0.38m。

ピットは、柱穴4 (P1～P4)、梯子穴 (P5)、貯蔵穴 (P6) を検出した。P1は直径0.53m・深さ0.55m、P2は直径0.48m・深さ0.60m、P3は直径0.38m・深さ0.64m、P4は直径0.32m・深さ0.36m。P5は直径0.50m・深さ0.40m。P6は楕円形を呈し、長軸1.38m・短軸0.86m・深さ0.48m。P6との間を仕切るように、東側コーナー付近に根太痕跡が2か所見られる。

遺構検出面ほぼ全面に、焼土・炭化材・炭化物が広がっていた。

出土遺物 (第17図・図版4)：第17図-SI048-1・2の埴と4のミニチュア土器は焼土中からの出土、3の小型の鉢は貯蔵穴から出土している。遺物総量は、古墳時代土師器3,532.53g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、壺、埴、鉢、ミニチュア、高坏・器台と続く。

SI049 (第8図・図版1)

位置：R15-21グリッド 規模：主軸 (推定) 7.10m、副軸 (推定) 6.90m、壁高 (北西) 0.26m・(北東) 0.18m 主軸方位：N-47°-W 重複関係：SI048に切られる。

構造等：SI048により、遺構の大部分に破壊を受ける。壁は北東から北西にかけてのみ残存し、壁溝も残る。床面からの壁溝の深さは0.09～0.12m。床の硬質面と炉は、検出できなかった。

ピットは、柱穴4 (P1～P4)、梯子穴 (P5) を検出した。P1は直径0.48m・深さ0.26m、P2は直径0.48m・深さ0.48m、P3は直径0.54m・深さ0.30m、P4は直径0.46m・深さ0.18m。P5は直径0.55m・深さ0.30m。

出土遺物：遺構の大半に破壊を受けているので、遺物量も少なく図化できる遺物はなかった。出土遺物の総量は、古墳時代土師器の430.54g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、壺、高坏・器台と続く。

SI050 (第9図・図版1・2)

位置：R16-10グリッド 規模：主軸4.90m、副軸5.14m、壁高 (北西) 0.36m・(北東) 0.32m・(南西) 0.28m・(南東) 0.28m 主軸方位：N-68°-W 重複関係：なし。

構造等：壁溝が全周し、北東壁と、南西壁から南東壁中央部にかけて、ベッド状遺構を検出した。床の硬質面は、遺構の中央部分から広がり、北東側ベッド状施設の上は硬化していない。床面からの壁溝の深さは0.04m。炉は楕円形を呈し、中央部が1か所被熱する。長軸1.10m・短軸0.78m。また、床面には炉以外に3か所の被熱が見られる。

ピットは、柱穴4 (P1～P4)、梯子穴 (P5)、貯蔵穴 (P6) を検出し、北西壁中央付近に柱痕の残るP7も検出している。P1は直径0.46m・深さ0.65m、P2は直径0.53m・深さ0.74m、P3は直径0.50m・深さ0.58m、P4は直径0.48m・深さ0.76m。P5は直径0.38m・深さ0.62m。P6は円形を呈し、長軸0.90m・短軸0.84m・深さ0.30m。P6との間を二重三重に仕切るように、東側コーナー付近に根太痕跡が4か所見られ、最もP6に近いものは平面形態がL字を呈する。P7は直径0.50m・深さ0.24m、平面で中央に柱痕が認められる。

東側コーナー部分から炭化材、南東壁付近から砂質粘土を検出した。

出土遺物 (第17図・図版4・5)：ほぼ完形の広口壺がまとまって出土している。第17図-SI050-2・3は西側コーナーの床上からの出土。1の鉢と4は貯蔵穴からの出土である。遺物総量は、古墳時代土師器1,617.99g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、広口壺、壺、鉢、高坏・器台と続く。

SI051 (第10図・図版2)

位置：S14-77グリッド 規模：主軸4.40m、副軸4.13m 主軸方位：N-27°-W 重複関係：なし。
構造等：床面は耕作により削平され、掘方が見えている状態であった。壁溝は北東壁から東コーナー部と南西壁の一部にのみ残る。床面からの壁溝の深さは0.05m。

ピットは、P1～P4、梯子穴(P5)、貯蔵穴(P6)を検出した。P1～P4のうち、P1とP3は柱穴の可能性があるが、P2・P4は位置的に柱穴とするのは難しい。P1は直径0.60m・深さ0.17m、P2は直径0.50m・深さ0.03m、P3は直径0.60m・深さ0.16m、P4は長軸0.78m・短軸0.56m・深さ0.10m。P5は直径0.61m・深さ0.09m。P6は方形を呈し、直径0.64m・深さ0.45m。

出土遺物：遺構の遺存がよくないため、出土遺物も少なく図化できるものはなかった。遺物総量は、古墳時代土師器34.55g。土師器は、甕と分類できるもののみであった。

SI052 (第10図・図版2)

位置：T14-50グリッド 規模：主軸4.46m、副軸4.70m、壁高(北西)0.36m・(北東)0.32m・(南西)0.28m・(南東)0.28m 主軸方位：N-16°-W 重複関係：なし。

構造等：耕作により削平され、壁はほとんど失われていたが、壁溝が全周し、床の硬質面は、遺構の中央部分から南側にかけて広がる。床面からの壁溝の深さは0.04m。炉は楕円形を呈し、中央部が1か所被熱する。長軸0.70m・短軸0.50m。

ピットは、P1～P4、貯蔵穴(P6)を検出した。P1～P4は柱痕の可能性は低い。P1は長軸1.30m・短軸0.72m・深さ0.18m、P2は直径0.42m・深さ0.12m、P3は直径0.52m・深さ0.15m、P4は直径0.24m・深さ0.07m。P6は円形を呈し、直径0.70m・深さ0.28m。

出土遺物(第17図・図版5)：遺構の遺存がよくないため、遺物も少なく図化できたのは第17図-SI051-1の高坏1点のみである。遺物総量は、古墳時代土師器347.38g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、高坏・器台、埴・鉢、壺、広口壺と続く。

SI053 (第11図・図版2)

位置：T14-42グリッド 規模：主軸4.40m、副軸4.36m、壁高(北西)0.20m・(北東)0.26m・(南西)0.20m・(南東)0.33m 主軸方位：N-27°-W 重複関係：なし。

構造等：壁溝が全周し、床の硬質面は、遺構中央部に広がる。床面からの壁溝の深さは0.10～0.14m。炉は楕円形で、長軸0.72・短軸0.50m。

ピットは、P1・P2、梯子穴(P5)、貯蔵穴(P6)を検出した。P1・P2が柱痕である可能性は低い。P1は直径0.53m・深さ0.55m、P2は直径0.54m・深さ0.38m。P5は直径0.25m、深さ不明。P6は隅丸長方形を呈し、長軸0.90m・短軸0.97m・深さ0.43m。

遺構検出面ほぼ全面に、焼土・炭化材・炭化物が広がっていた。

出土遺物(第17図・図版5)：遺物は床面からの出土が多い。第17図-SI053-2の紡錘車は、北東壁に近い焼土中から出土している。遺物総量は、古墳時代土師器1,550.86g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、高坏・器台、広口壺、壺、土製品と続く。

SI054 (第11図・図版2)

位置：S15-56グリッド 規模：主軸4.60m、副軸4.50m、壁高(北西)0.12m・(北東)0.08m・(南西)0.02m・(南東)0.04m 主軸方位：N-57°-W 重複関係：なし。

構造等：壁溝が全周し、南東壁から垂直に連続する形で根太痕跡が見られる。床の硬質面は、遺構の中央部

分からやや東寄りに広がる。床面からの壁溝の深さは0.04～0.09m。炉は2か所認められ、炉1は楕円形を呈し中央部を中心に被熱する。長軸0.72m・短軸0.57m。炉2は円形を呈し全体が被熱する。直径0.48m。

ピットは、P1・P2、貯蔵穴（P6）を検出した。P1・P2とも柱痕である可能性は低い。P1は長軸0.94m・短軸0.56m、深さ0.41m、P2は直径0.24m・深さ0.34m。P6は隅丸長方形を呈し、長軸1.00m・短軸0.66m・深さ0.28m。

出土遺物：出土遺物が少なく、図化できるものはなかった。遺物総量は、縄文土器6.48g。古墳時代土師器139.69g。土師器は、壺と分類できるものが最も多く、高坏・器台、甕と続く。

SI055（第12図・図版3）

位置：S15-87グリッド 規模：主軸6.58m、副軸6.58m、壁高（北西）0.34m・（北東）0.34m・（南西）0.33m・（南東）0.34m 主軸方位：N-31°-W 重複関係：なし。

構造等：壁溝が全周し、北コーナーから北東壁・南東壁・南西壁・西コーナーまでベッド状遺構が巡る。床の硬質面はベッド状になっていない床面に広がり、ベッド状遺構の上は硬化していない。床面からの壁溝の深さは0.02～0.06m。炉は2か所検出され、炉1は楕円形を呈し、中央部が1か所被熱する。長軸0.84m・短軸0.70m。炉2は円形を呈し、直径0.32m。被熱範囲は直径10cm程度である。貯蔵穴（P6）の部分囲むように、南東壁から垂直に延びる根太痕跡と、北東壁から垂直に延びてP4と交わり、さらにP4の反対側へ延びる根太痕跡を検出した。

ピットは、柱穴4（P1～P4）、梯子穴（P5）、貯蔵穴（P6）を検出し、P1は直径0.55m・深さ0.68m、P2は直径0.58m・深さ0.76m、P3は直径0.72m・深さ0.52m、P4は直径0.68m・深さ0.66m。P5は直径0.64m・深さ0.38m。P6は楕円形を呈し、長軸0.72m・短軸0.60m・深さ0.20m。

出土遺物（第18図・図版5）：炉の北側の床面から遺物がまとまって出土している。第18図-SI055-1～5はいずれも炉の北側からの出土である。遺物総量は、縄文土器39.37g。古墳時代土師器4204.94g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、壺、高坏・器台と続く。

SI056（第13図・図版3）

位置：S16-04グリッド 規模：主軸4.40m、副軸4.13m、壁高（北西）0.45m・（北東）0.49m・（南西）0.45m・（南東）0.51m 主軸方位：N-47°-W 重複関係：なし。

構造等：壁溝が全周し、床の硬質面は炉の周りに広がり、南西壁の付近は硬化していない。床面からの壁溝の深さは0.05～0.07m。炉は楕円形を呈し、中央部が1か所被熱する。長軸1.18m・短軸0.68m。南東壁から垂直に延びる根太痕跡を検出した。床面は北西寄りに焼土が点在し、遺物もこの面で多く出土している。

ピットは、梯子穴（P5）、貯蔵穴（P6）を検出した。P5は直径0.30m・深さ0.32m。P6は隅丸長方形を呈し、長軸0.60m・短軸0.45m・深さ0.30m。

出土遺物（第18図・図版5・6）：第18図-SI056-1～3は、いずれも焼土が散在する床面からの出土である。遺物総量は、縄文土器11.50g。古墳時代土師器1856.88g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、高坏・器台、壺と続く。

SI057（第14図・図版3）

位置：T15-28グリッド 規模：主軸7.04m、副軸6.83m 主軸方位：N-42°-W

重複関係：SI058を切る

構造等：東コーナー部は調査区域外に広がる。耕作により床面まで削平されており、壁は失われている。壁溝が全周し、残存する床面からの壁溝の深さは0.06～0.16m。炉は円形を呈し、直径0.98m。

ピットは、柱穴4（P1～P4）を検出し、P1は直径0.56m・深さ0.55m、P2は直径0.55m・深さ0.50m、P3は直径0.57m・深さ0.56m、P4は直径0.60m・深さ0.53m。

出土遺物（第18図・図版6）：図化できる遺物は少なかったが、掘方覆土から土玉が1点出土している（第18図－SI057－1）。遺物総量は、古墳時代土師器1,841.39g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、続いて壺、埴、高坏・器台となる。

SI058（第14図・図版3）

位置：T15－28グリッド 規模：主軸7.48m、副軸8.10m 主軸方位：N－42°－W

重複関係：SI057に切られる。

構造等：東コーナー部は調査区域外に広がる。耕作により床面まで削平されており、壁は失われている。遺構の大半をSI057により破壊される。壁溝は北東壁から南東壁・南西壁まで遺存する。残存する床面からの壁溝の深さは0.06～0.10m。

ピットは、柱穴3（P1～P3）と南東壁溝を切るP7を検出した。P1は直径0.55m・深さ0.31m、P2は直径0.49m・深さ0.30m、P3は直径（残存）0.50m・深さ0.30m、P7は直径0.50m・深さ0.31m。

出土遺物：遺構が大きく破壊されているため出土遺物は少なく、図化できるものはなかった。遺物総量は、古墳時代土師器50.82g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、続いて壺、高坏・器台となる。

SI059（第15図・図版3）

位置：S16－51グリッド 規模：主軸6.30m、副軸6.00m、壁高（北西）0.33m・（北東）0.38m・（南西）0.26m・（南東）0.37m 主軸方位：N－50°－W 重複関係：SI060を切る

構造等：壁溝が全周し、北コーナーから北東壁・北西壁・南西壁・南東壁の中央までベッド状遺構が巡る。床の硬質面はベッド状施設の上下に関わらず、P1付近からP3・P4の方向へ向かって広がる。床面からの壁溝の深さは0.02～0.10m。炉は2か所検出され、炉1は楕円形を呈し、中央部が被熱する。長軸1.20m・短軸0.84m。炉2は楕円形を呈し、長軸0.44m・短軸0.24m。貯蔵穴（P6）の部分を囲むように、南東壁から垂直に延びる根太痕跡と、北東壁から垂直に延びる根太痕跡を検出した。

ピットは、柱穴4（P1～P4）、梯子穴（P5）、貯蔵穴（P6）を検出し、P1は直径0.64m・深さ0.70m、P2は直径0.60m・深さ0.64m、P3は直径0.47m・深さ0.68m、P4は直径0.62m・深さ0.54m。P5は直径0.60m・深さ0.23m。P6は不整楕円形を呈し、長軸0.78m・短軸0.62m・深さ0.33m。

出土遺物（第18図・図版6）：床面から遺物が多く出土している。甕は刷毛目調整で赤色の強いものが多い。遺物総量は、古墳時代土師器1,478.24g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、壺、高坏・器台、坏と続く。

SI060（第16図・図版3）

位置：S16－83グリッド 規模：主軸5.80m、副軸5.96m、壁高（北西）不明・（北東）0.32m・（南西）0.20m・（南東）0.34m 主軸方位：N－43°－E 重複関係：SI059に切られる。

構造等：北西側をSI059により破壊される。壁溝はSI059に破壊されている部分と北東壁の一部を除き全周する。床面からの壁溝の深さは0.02～0.16m。炉は楕円形を呈し、東寄りの半分に被熱の痕跡がわずかに見られる。長軸1.90m・短軸0.96m。

ピットは、柱穴4（P1～P4）を検出し、掘方から各ピットの一回り内側の位置でP7～P10を検出した。P1は直径0.68m・深さ0.75m、P2は長軸1.40m・短軸0.90・深さ0.60m、P3は直径1.26m・深さ0.76m、P4は直径0.98m・深さ0.60m。P7は直径0.40m・深さ0.28m、P8は直径0.32m・深さ0.36m、P9は直径0.36m・深さ0.12m、P10は直径0.18m・深さ0.66m。このP7～P10の存在は、SI060が当初一回り小さ

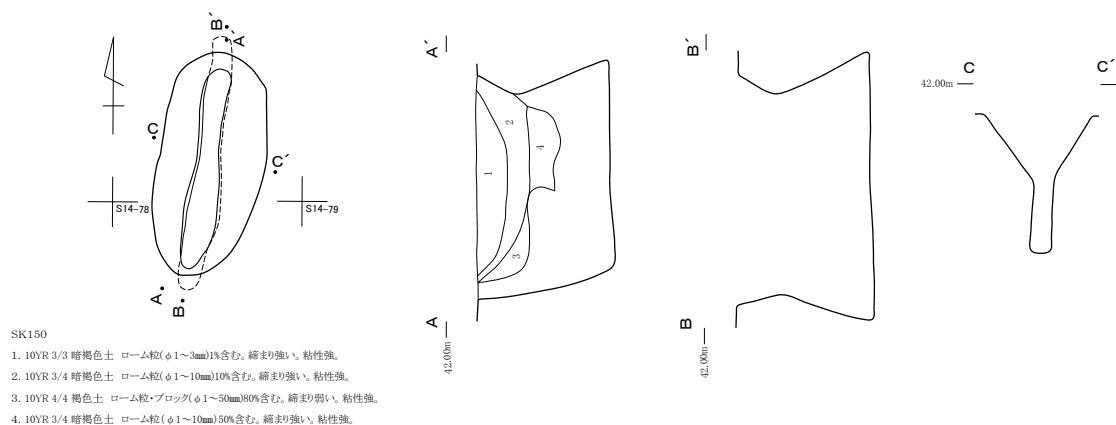
い大きさに建てられた後、拡張・建て直しを行ったことを示す可能性もある。

出土遺物（第18図・図版6）：出土遺物は少なく、図示できたのは高坏の脚部1点のみである（第18図－SI060－1）。遺物総量は、古墳時代土師器504.72 g。土師器は、甕と分類できるものが最も多く、高坏・器台と続く。

5. 遺構外出土遺物

遺構外からは、縄文土器97.58 g、古墳時代土師器751.04 g、古墳時代須恵器5.59 gが出土している。土師器のうち、甕と推定できる破片がその多くを占め、ほか広口壺・高坏または器台と推定できる破片が見受けられたが、いずれも小片であり、図化できるものはなかった。

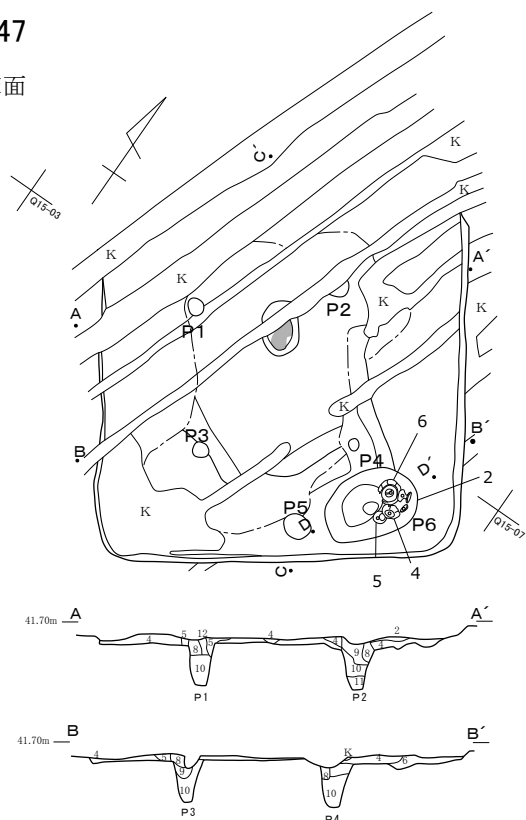
SK150



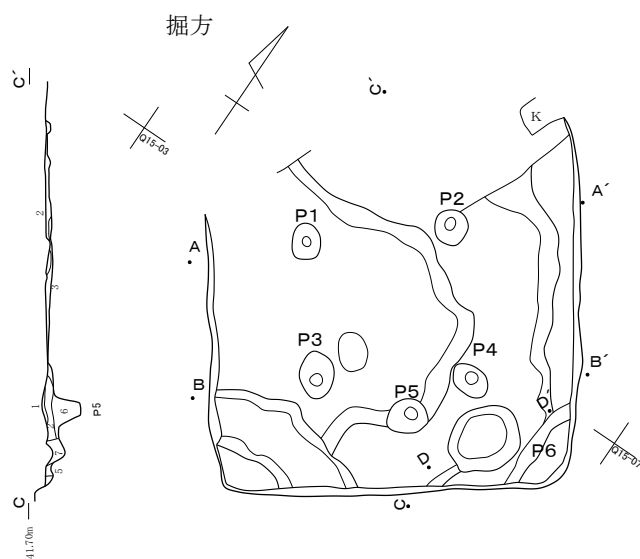
第5図 縄文時代遺構実測図 SK150

SI047

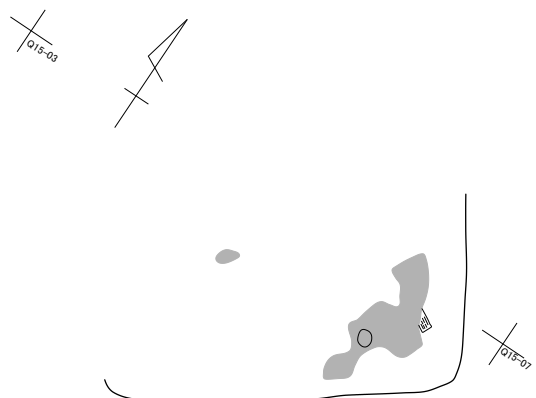
床面



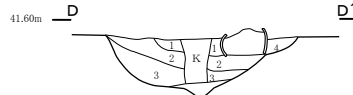
掘方



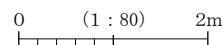
焼土・炭化材



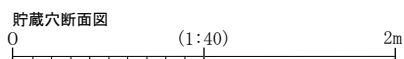
P6貯蔵穴



- (P6貯蔵穴)
- 2.5YR 5/6 明赤褐色土 焼土粒(φ1~5mm)80%、ローム粒(φ1~3mm)10%含む。締まり強い、粘性やや強。
 - 7.5YR 3/1 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)20%、焼土粒(φ1~3mm)5%含む。締まりやや強い、粘性やや強。
 - 7.5YR 4/3 褐色土 ローム粒(φ1~3mm)80%、焼土粒(φ1~3mm)1%含む。締まり弱い、粘性やや強。
 - 7.5YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~3mm)50%、焼土粒(φ1~3mm)3%含む。締まり強い、粘性強。

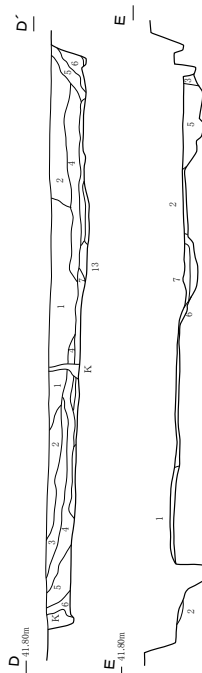
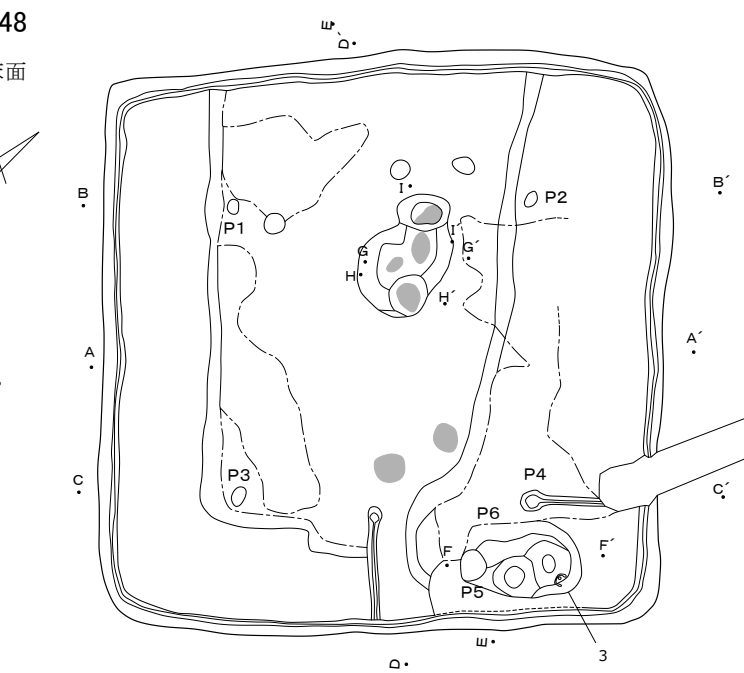


第6図 古墳時代竪穴住居実測図 SI047



SI048

床面



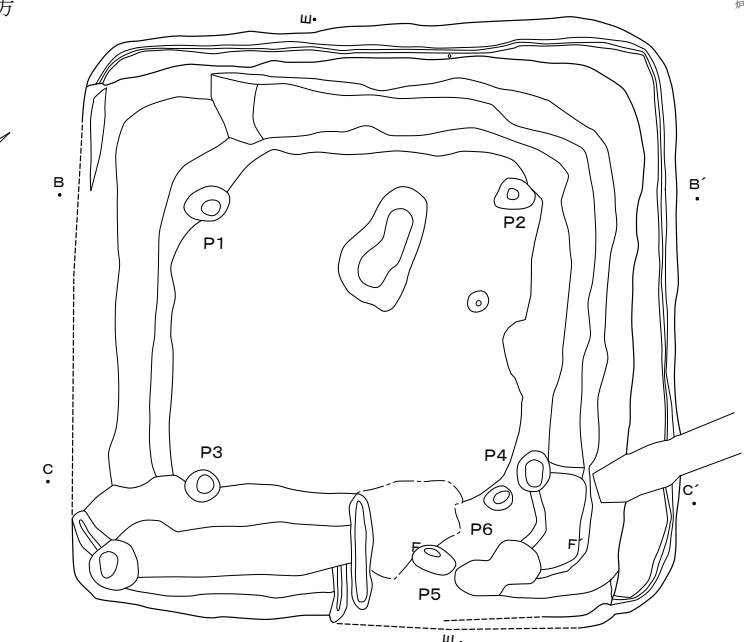
SI048

- 床 1. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まり極めて強い、粘性強。
 床 2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1~3mm)90%含む。締まり強い、粘性強。
 3. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~40mm)20%含む。締まり強い、粘性強。
 4. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
 5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)10%含む。締まり強い、粘性強。
 6. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~3mm)60%含む。締まり弱い、粘性弱。
 7. 2.5YR 4/6 赤褐色土 ソフトローム地山が被褥。締まり弱い、粘性弱。
 炉 8. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~3mm)30%、炭化物(φ1~5mm)10%含む。締まり弱い、粘性強。
 9. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まり強い、粘性強。
 10. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)70%含む。締まり強い、粘性強。
 11. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)80%含む。締まり弱い、粘性強。
 12. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まり強い、粘性強。

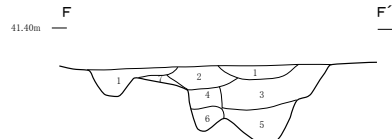
SI048

- 埋土 1. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%含む。締まりやや強い、粘性強。
 埋土 2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)70%含む。締まり強い、粘性強。
 埋土 3. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
 埋土 4. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~60mm)80%、焼土粒(φ1~3mm)5%含む。締まり強い、粘性強。
 5. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)20%、焼土粒(φ1~10mm)5%含む。締まりやや弱い、粘性強。
 焼土主体 6. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土粒・ブロック(φ1~20mm)80%、炭化物(φ1~30mm)5%含む。締まり強い、粘性強。
 7. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%、焼土粒(φ1~5mm)10%、炭化物(φ1~5mm)5%含む。締まり強い、粘性強。
 8. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%、焼土粒(φ1~5mm)1%含む。締まり弱い、粘性強。
 9. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~80mm)70%、焼土粒(φ1~5mm)5%含む。締まりやや弱い、粘性強。
 10. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)30%、焼土粒(φ1~5mm)20%含む。締まり強い、粘性強。
 11. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム粒(φ1~10mm)70%、焼土粒(φ1~5mm)10%含む。締まり強い、粘性強。
 12. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)60%、焼土粒(φ1~5mm)5%含む。締まり強い、粘性強。
 炉 13. 2.5YR 5/4 に近い赤褐色土 焼土粒(φ1~10mm)30%含む。締まり弱い、粘性やや強。

掘方



P6貯蔵穴

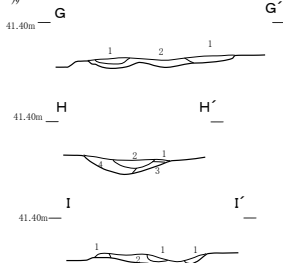


SI048

(P6貯蔵穴)

1. 7.5YR 3/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)10%、焼土粒(φ1~5mm)10%、炭化物(φ1~5mm)10%含む。締まり弱い、粘性強。
 2. 7.5YR 3/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)10%、焼土粒(φ1~3mm)20%、炭化物(φ1~10mm)2%含む。締まり強い、粘性強。
 3. 7.5YR 3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)70%、焼土粒(φ1~3mm)20%、炭化物(φ1~3mm)1%含む。締まり強い、粘性強。
 4. 7.5YR 4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
 5. 7.5YR 4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
 6. 7.5YR 4/6 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)90%含む。締まり強い、粘性強。
 7. 7.5YR 4/4 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)90%含む。締まり強い、粘性強。

炉



炉

1. 7.5YR 3/3 暗褐色土 焼土粒(φ1~3mm)10%含む。締まり弱い、粘性強。
 灰主体 2. 2.5YR 5/6 明赤褐色土 灰60%、焼土粒(φ1~5mm)40%含む。締まり強い、粘性やや強。
 3. 2.5YR 4/6 赤褐色土 灰30%、焼土粒(φ1~5mm)30%含締まり弱い、粘性やや弱。
 ローム主体 4. 7.5YR 5/6 明褐色土 焼土粒(φ1~5mm)10%含む。締まりやや弱い、粘性強。

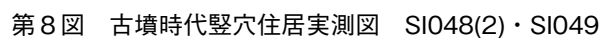
0 (1:80) 2m

貯蔵穴・炉断面図

0 (1:40) 2m

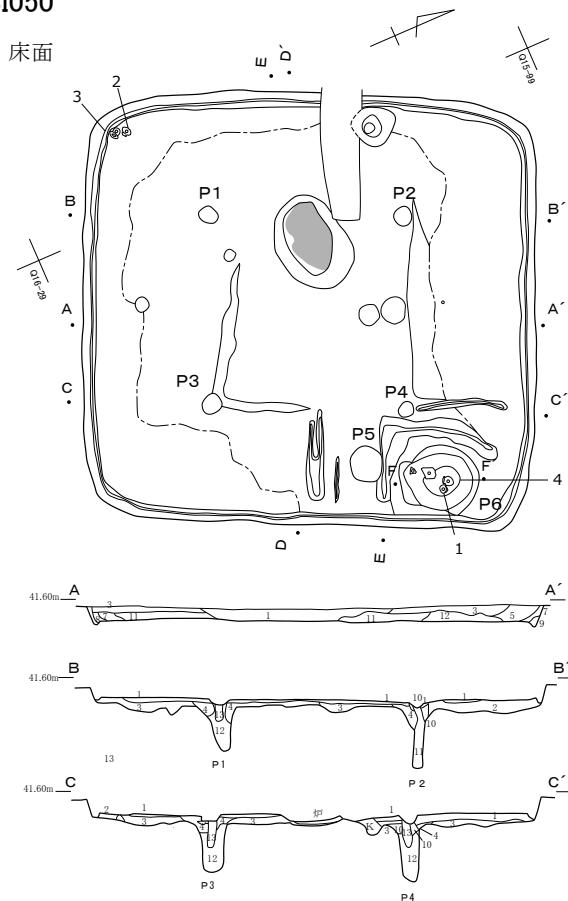
第7図 古墳時代竪穴住居実測図 SI048(1)

焼土・炭化材



SI050

床面



P6貯蔵穴



(P6 貯蔵穴)

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~80mm)50%含む、締り強い、粘性強。
2. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム殻(φ1~5mm)80%含む、締り強い、粘性強。
3. 2.5YR 5/4 に近い赤褐色土 堆土殻(φ1~10mm)50%、ローム殻(φ1~5mm)含む、締りやや弱い、粘性やや弱。

SI050

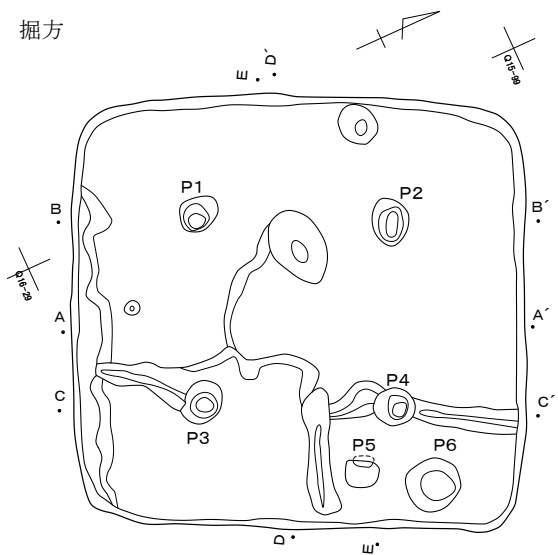
- 堆土(ローム土主層) 1. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~20mm)80%含む、締り強い、粘性強。
 堆土(ローム土主層) 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム殻(φ1~3mm)30%含む、締り強い、粘性強。
 堆土(ローム土主層) 3. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~20mm)80%含む、締り強い、粘性強。
 堆土(ローム土主層) 4. 10YR 5/3 に近い黄褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~20mm)80%含む、締り強い、粘性強。
 5. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム殻(φ1~3mm)10%含む、締り強い、粘性強。
 6. 10YR 4/4 褐色土 ローム殻(φ1~3mm)30%、堆土殻(φ1~3mm)10%含む、締りやや強い、粘性強。
 堆土主層 7. 2.5YR 5/8 明赤褐色土 堆土殻・ブロッグ(φ1~20mm)60%、ローム殻(φ1~3mm)10%含む、締り弱い、粘性やや弱。
 ローム土主層 8. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム殻(φ1~5mm)50%含む、締り強い、粘性強。
 ローム土主層 9. 10YR 5/8 黄褐色土 ローム殻(φ1~5mm)30%含む、締り強い、粘性強。
 砂 被熱面上(灰主層) 10. 2.5YR 5/4 に近い赤褐色土 灰70%、堆土殻・ブロッグ(φ1~20mm)10%含む、締り弱い、粘性やや弱。
 堆土(ローム土主層) 11. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~30mm)50%含む、締り強い、粘性強。
 堆土(ローム土主層) 12. 10YR 4/6 褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~20mm)80%含む、締り強い、粘性強。

(断面)

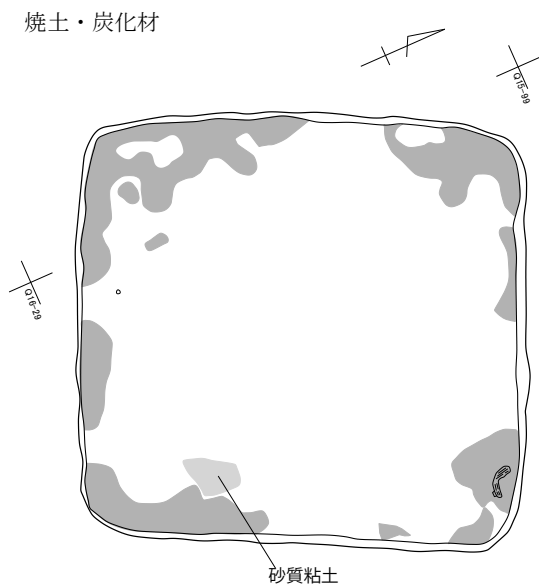
砂層

1. 10YR 4/2 灰黄褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~30mm)90%、締り極めて強い、粘性強。
2. 10YR 4/7(2)に近い黄褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~20mm)80%、締り強い、粘性強。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~30mm)60%、締り強い、粘性強。
4. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~30mm)50%、締り極めて強い、粘性強。
5. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム殻(φ1~3mm)30%、締り強い、粘性強。
6. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム殻・ブロッグ(φ1~20mm)90%、締り強い、粘性強。
7. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム殻(φ1~5mm)30%、締りやや強い、粘性弱。
- 性質
8. 10YR 3/1 黒褐色土 ローム殻(φ1~10mm)100%、締り弱い、粘性弱。
9. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム殻(φ1~5mm)90%、締り弱い、粘性弱。
10. 10YR 4/4 褐色土 ローム殻(φ1~10mm)90%含む、締り弱い、粘性弱。

掘方



焼土・炭化材



砂質粘土

0 (1:80) 2m

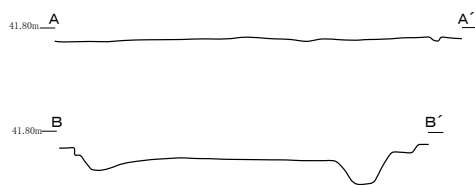
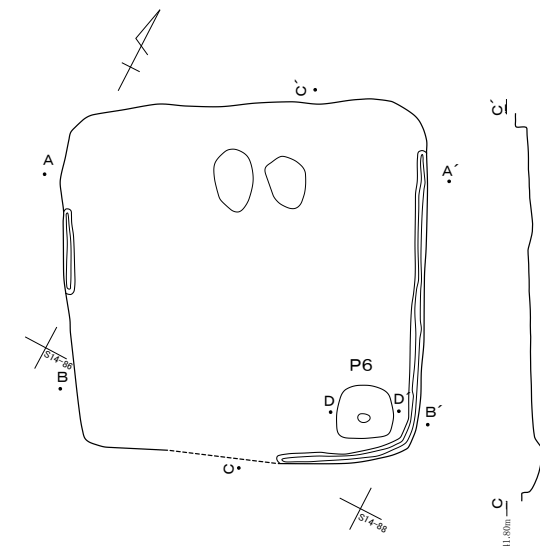
貯蔵穴断面図

0 (1:40) 2m

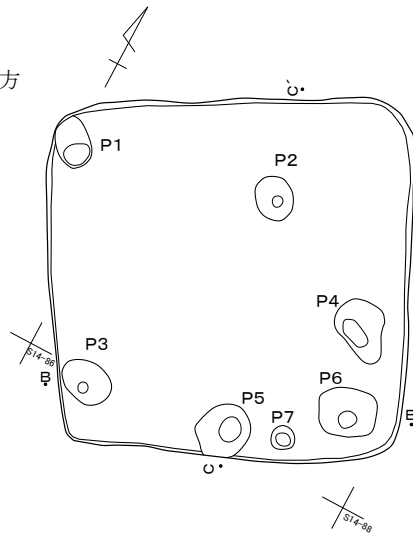
第9図 古墳時代竪穴住居実測図 SI050

SI051

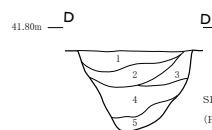
床面



掘方



P6貯蔵穴



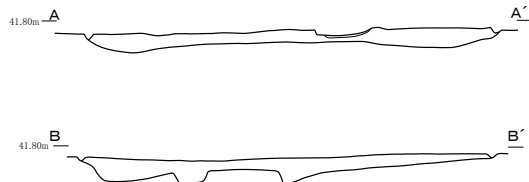
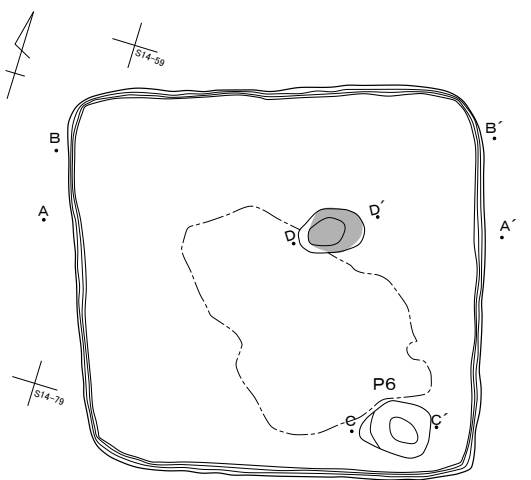
SI051

(P6貯蔵穴)

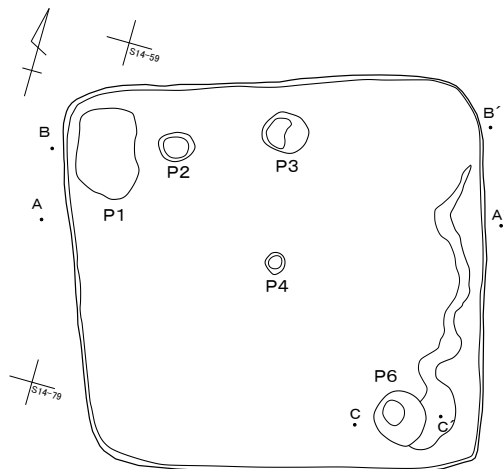
1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(ϕ 1~3mm)30%含む。締まりやや弱い、粘性弱。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(ϕ 1~3mm)10%含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
3. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒(ϕ 1~3mm)3%含む。締まりやや強い、粘性強。
4. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(ϕ 1~3mm)底文状に30%含む。締まりやや強い、粘性強。
5. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒(ϕ 1~3mm)80%含む。締まり弱い、粘性強。

SI052

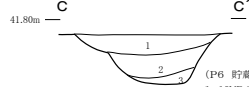
床面



掘方



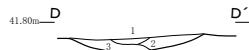
P6貯蔵穴



(P6 貯蔵穴)

1. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒(ϕ 1~5mm)60%含む。締まりやや強い、粘性やや強い。
2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(ϕ 1~10 mm)30%含む。締まりやや強い、粘性強。
3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒(ϕ 1~10mm)70%含む。締まり弱い、粘性強。

炉



SI052

(炉)

1. 5YR 4/3 にぶい赤褐色土 焼土粒(ϕ 1~3mm)10%含む。締まり強い、粘性やや強い。
2. 5YR 5/4 にぶい赤褐色土 焼土粒(ϕ 1~2mm)80%含む。細粒。締まり強い、粘性強。
3. 2.5YR 5/6 明赤褐色土 焼土粒(ϕ 1~10mm)90%含む。締まりやや弱い、粘性やや弱。

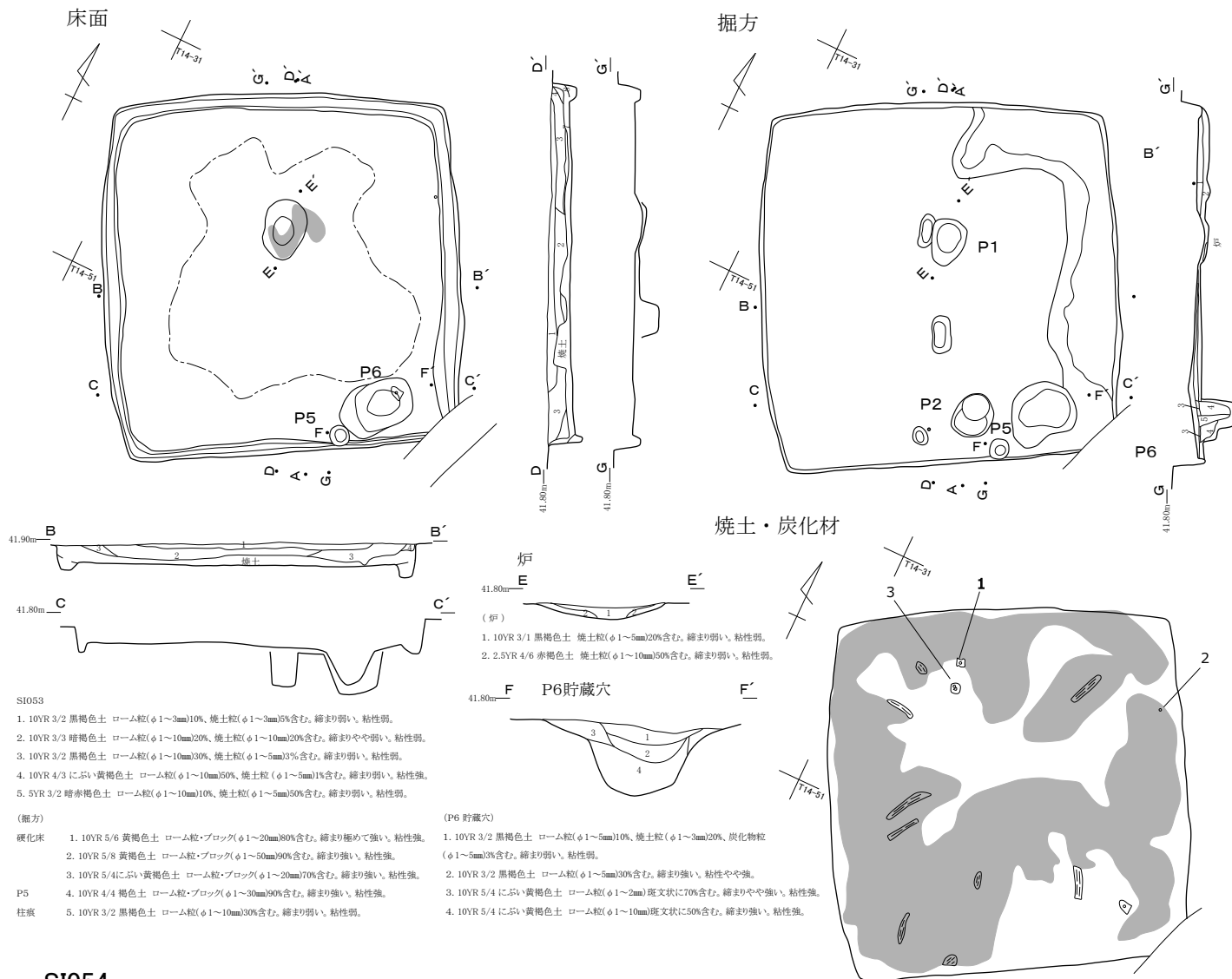
0 (1:80) 2m

貯蔵穴断面図

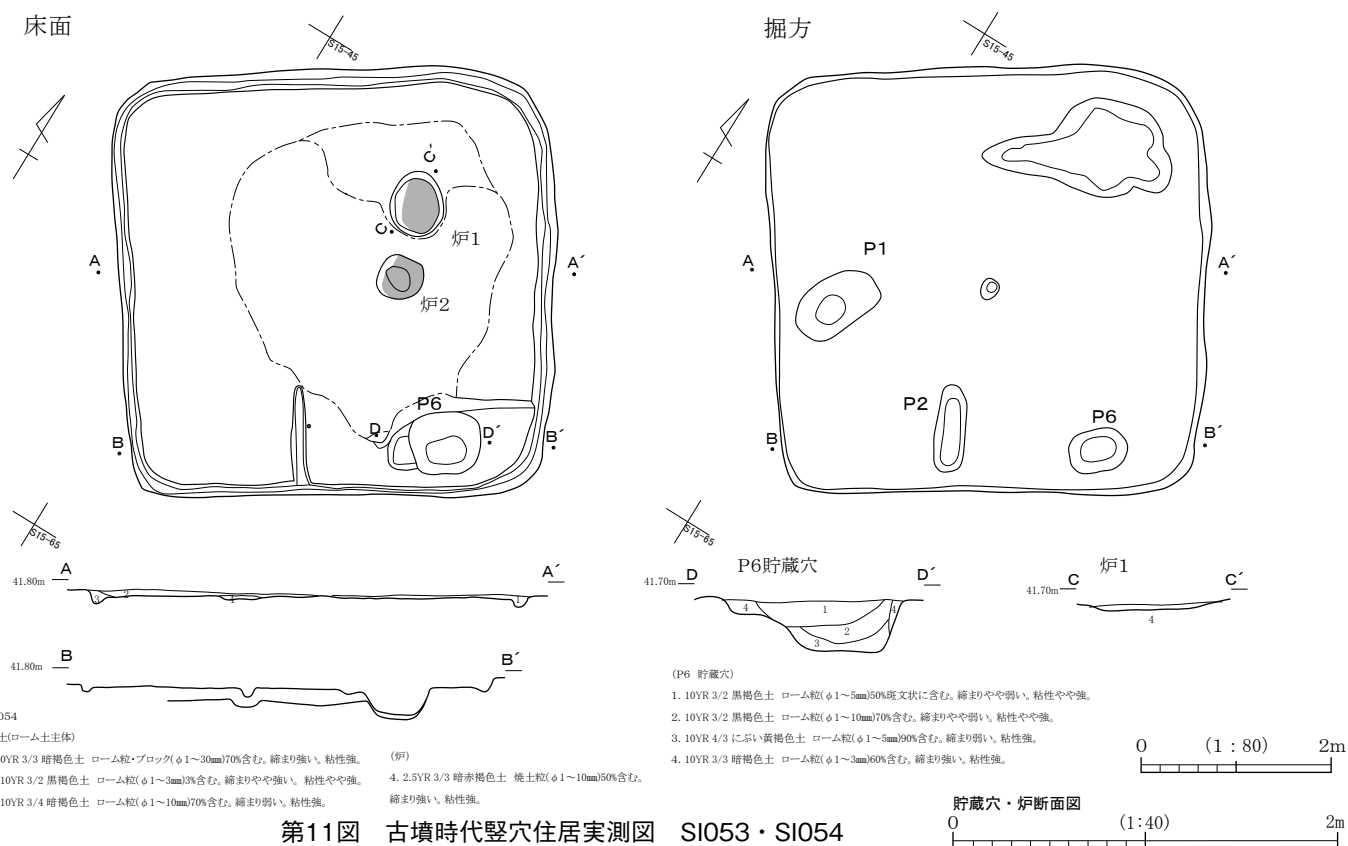
0 (1:40) 2m

第10図 古墳時代竪穴住居実測図 SI051・SI052

SI053



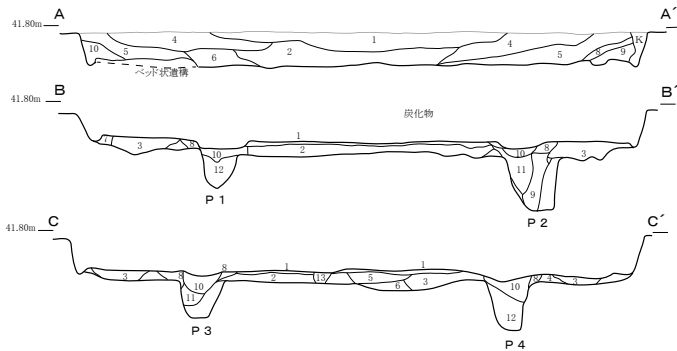
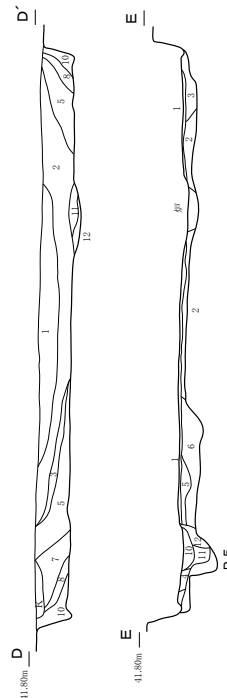
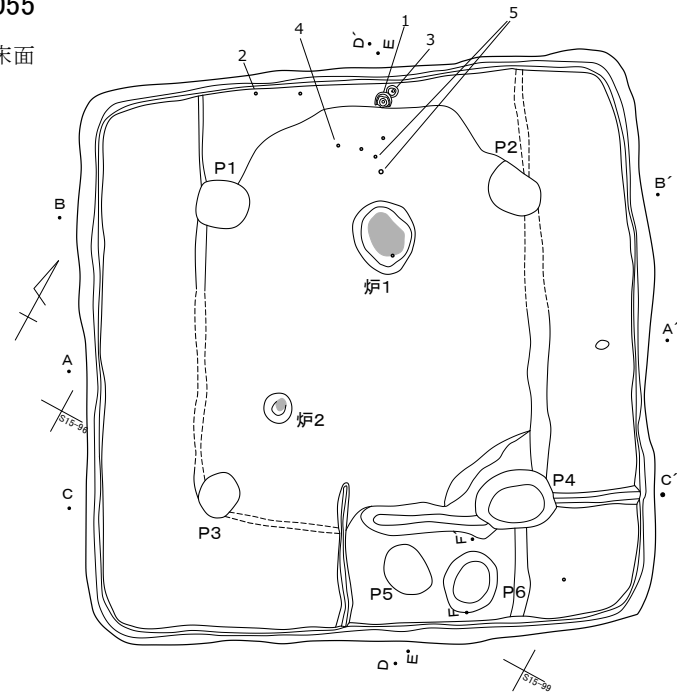
SI054



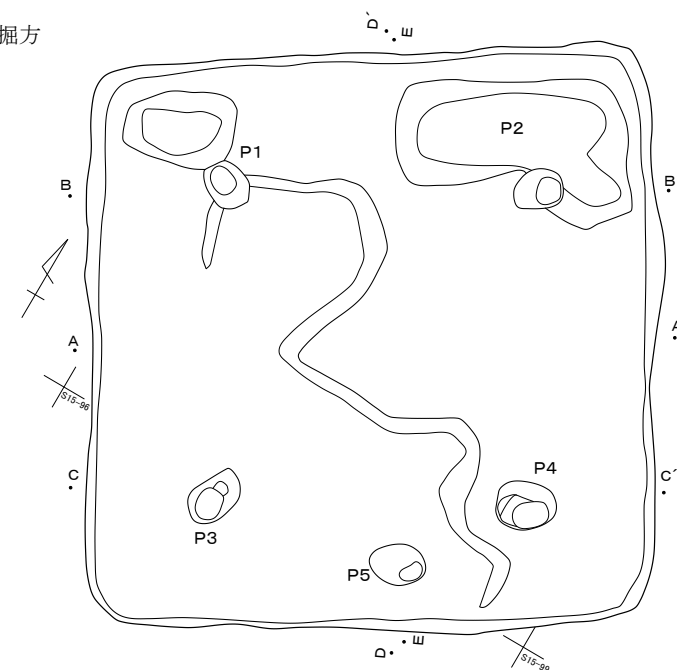
第11図 古墳時代竪穴住居実測図 SI053・SI054

SI055

床面



掘方



SI055

- 自然堆積 黒色土 1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)5%, 焼土粒(φ1~2mm)僅かに含む。締まりやや強い、粘性やや強。
埋土 ローム土主体 2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~100mm)70%含む。締まり強い、粘性強。
埋土 ローム土主体 3. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)50%含む。締まり強い、粘性強。
埋土 ローム土主体 4. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~50mm)70%, 焼土粒(φ1~2mm)僅かに含む。締まり強い、粘性強。
埋土 ローム土主体 5. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~100mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
埋土 ローム土主体 6. 10YR 4/2 灰褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)70%含む。締まり強い、粘性強。
埋土 ローム土主体 7. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~70mm)90%含む。締まり強い、粘性強。
8. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)30%含む。締まり強い、粘性強。
ローム土主体 9. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)90%含む。締まり強い、粘性強。
10. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)40%, 炭化物粒(φ1~3mm)僅かに含む。締まり弱い、粘性強。
11. 10YR 3/4 明褐色土 ローム粒(φ1~3mm)3%, 焼土粒(φ1~2mm)2%含む。灰10%含む。締まり強い、粘性やや弱。
埋土 ローム土主体 12. 2.5YR 5/4 に近い赤褐色土 灰70%, 焼土粒(φ1~10mm)30%含む。締まり弱い、粘性弱。

SI055

(掘り方)

- 硬化床 1. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)70%含む。締まり強い、粘性強。
2. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~100mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~50mm)50%含む。締まりやや強い、粘性やや強。
4. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まり弱い、粘性強。
5. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
6. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~30mm)60%含む。締まり強い、粘性強。
7. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まり弱い、粘性強。
8. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1~10mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
9. 10YR 5/4 に近い黄褐色土 ローム粒(φ1~15mm)70%含む。締まり強い、粘性強。
10. 10YR 4/3 に近い黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)20%含む。締まり弱い、粘性弱。
埋土 11. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)30%含む。締まり弱い、粘性弱。
12. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
根太 掘り方 13. 10YR 5/4Cに近い黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)80%含む。締まり弱い、粘性強。
炉 被熱 14. 10YR 4/6 褐色土 締まり弱い、粘性弱。

P6貯蔵穴



P6 貯蔵穴)

1. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~3mm)60%, 焼土粒(φ1~3mm)3%含む。締まり弱い、粘性やや強。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)70%, 焼土粒(φ1~5mm)1%含む。締まり弱い、粘性やや強。

0 (1 : 80) 2m

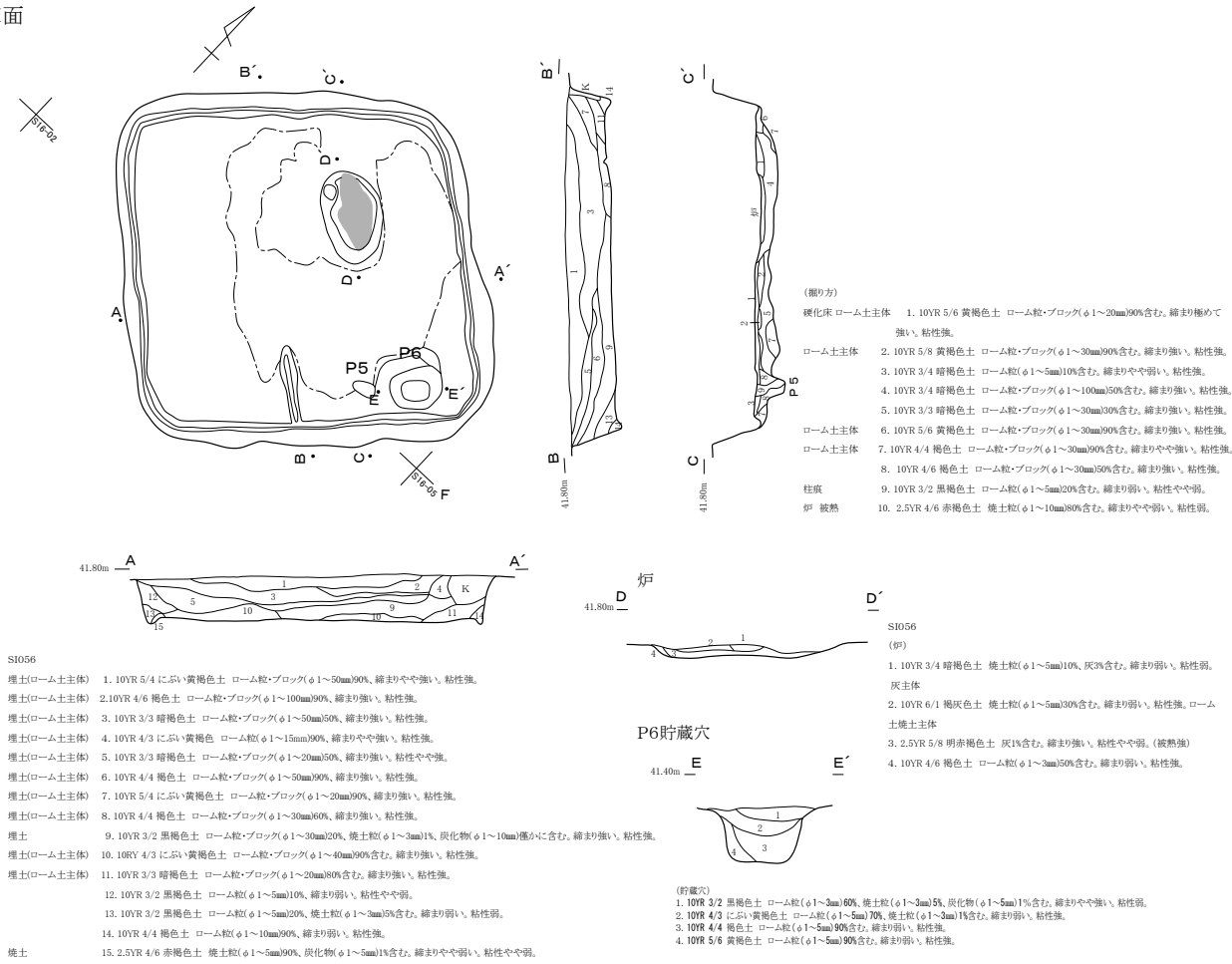
貯蔵穴断面図

0 (1 : 40) 2m

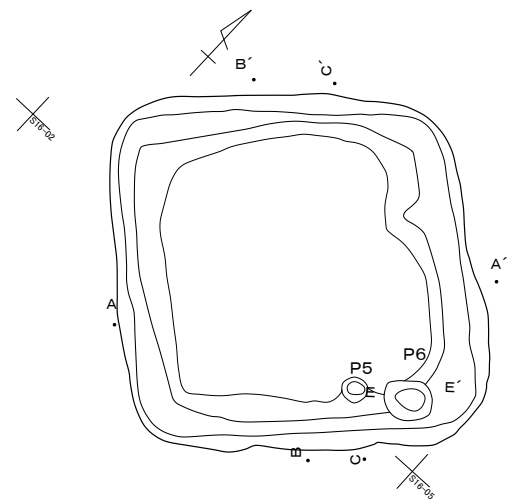
第12図 古墳時代竪穴住居実測図 SI055

SI056

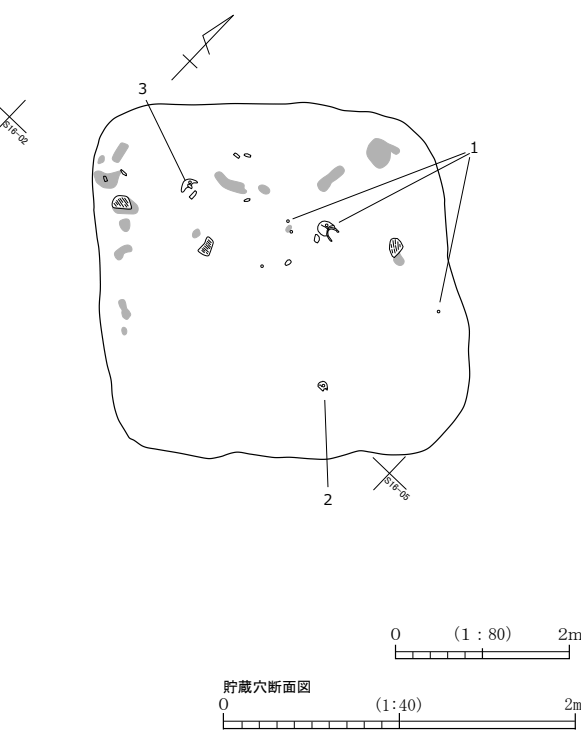
床面



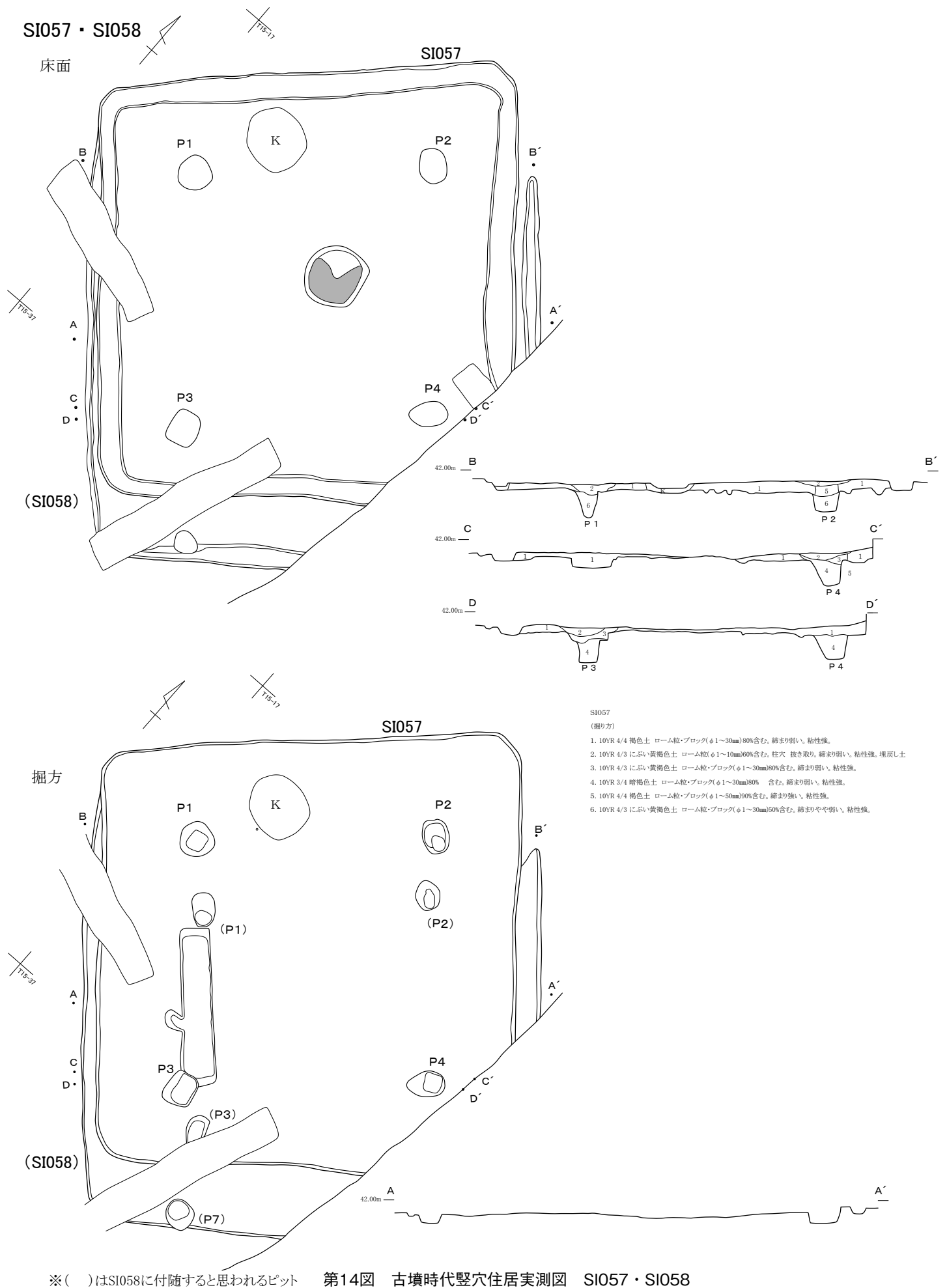
掘方



焼土・炭化材



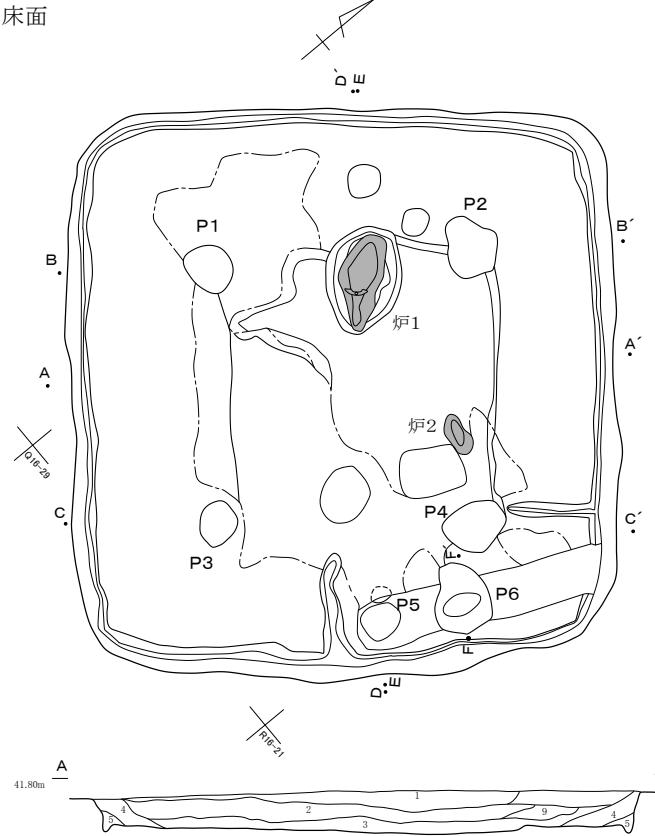
第13図 古墳時代竪穴住居実測図 SI056



第14図 古墳時代竪穴住居実測図 SI057・SI058

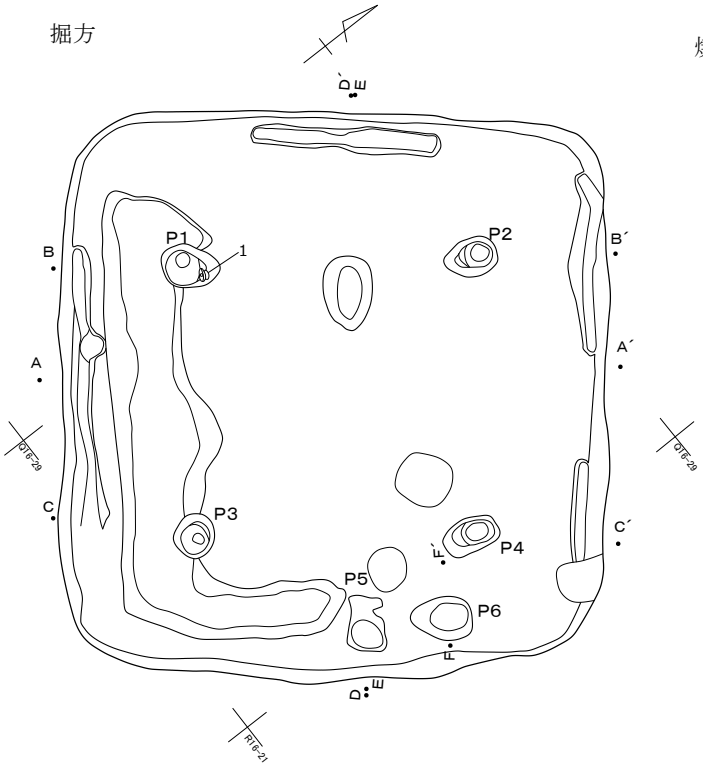
SI059

床面

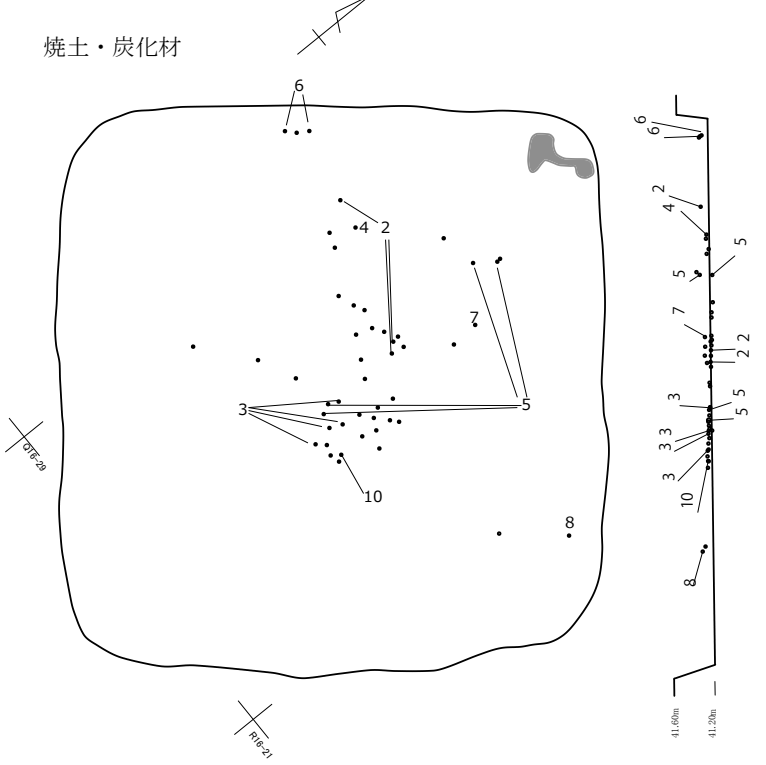


- SI059
埋土(ローム土主体) 1. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~100mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
埋土(ローム土主体) 2. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)60%、焼土粒(φ1~5mm)3%含む。締まり強い、粘性強。
埋土(ローム土主体) 3. 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~100mm)90%、焼土粒(φ1~5mm)5%含む。締まり強い、粘性強。
4. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)10%、焼土粒(φ1~3mm)2%、炭化物粒(φ1~2mm)僅かに含む。締まりやや弱い、粘性強。
(ローム土主体) 5. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)90%含む。締まり弱い、粘性強。
6. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)80%含む。締まり弱い、粘性強。
7. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)30%、焼土粒(φ1~3mm)20%含む。締まり強い、粘性強。
8. 2.5YR 5/4 にぶい赤褐色土 灰80%、焼土粒(φ1~5mm)20%含む。締まり弱い、粘性やや強い。
9. 7.5YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)40%含む。締まり強い、粘性強。

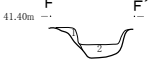
掘方



焼土・炭化材

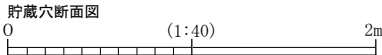
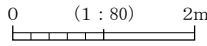


P6貯蔵穴



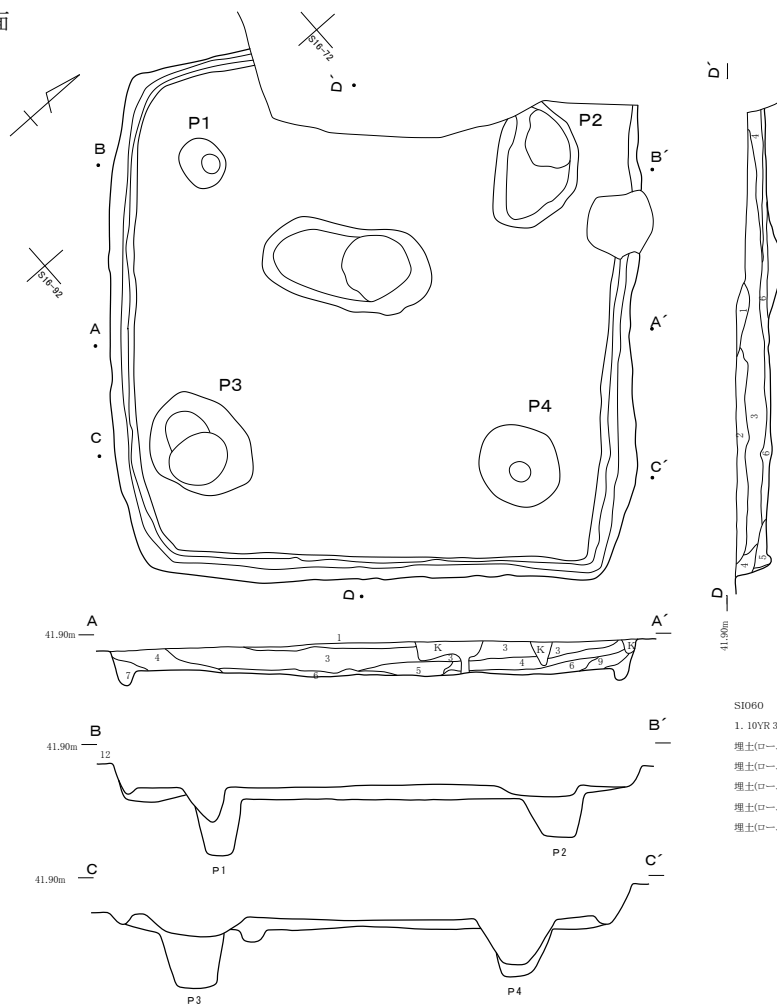
- (貯蔵穴 P6)
1. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)70%含む。締まり極めて強い、粘性強。
2. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)30%含む。締まり強い、粘性強。
- (掘方)
1. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)30%含む。締まり特に強い、粘性強。
2. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
3. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)50%含む。締まり強い、粘性強。
4. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~50mm)70%含む。締まりやや強い、粘性強。
5. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まり弱い、粘性強。
6. 10YR 5/6 黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~100mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
7. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)90%含む。締まり弱い、粘性強。
8. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)50%含む。締まり強い、粘性強。
9. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)80%含む。締まり強い、粘性強。
10. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まりやや強い、粘性強。
11. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)50%含む。締まり弱い、粘性強。
12. 10YR 3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)30%含む。締まり弱い、粘性弱。
13. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)20%含む。締まり弱い、粘性弱。
炉 被熱 赤化
14. 2.5YR 4/6 赤褐色土 焼土粒・ブロック(φ1~30mm)90%含む。締まりやや弱い、粘性弱。
15. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~40mm)30%、焼土粒(φ1~5mm)3%含む。締まり弱い、粘性弱。
16. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)70%、焼土粒(φ1~5mm)5%含む。締まり強い、粘性強。

第15図 古墳時代竪穴住居実測図 SI059



SI060

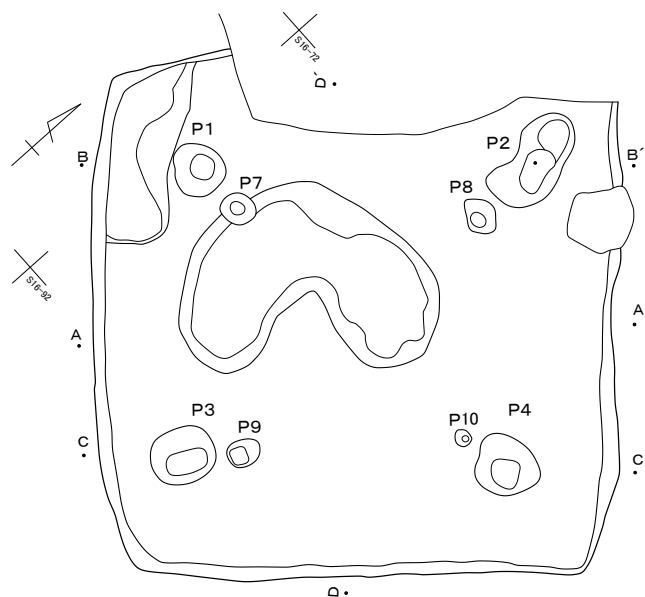
床面



SI060

1. 10YR 3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)20%含む。締まり弱い、粘性やや弱。
- 埋土(ローム土主体) 2. 10YR 4/4 褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~80mm)70%含む。締まりやや弱い、粘性やや弱。
- 埋土(ローム土主体) 3. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~50mm)80%含む。締まりやや強い、粘性やや強。
- 埋土(ローム土主体) 4. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)40%含む。締まりやや強い、粘性強。
- 埋土(ローム土主体) 5. 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~20mm)60%含む。締まり強い、粘性強。
- 埋土(ローム土主体) 6. 10YR 3/4 暗褐色土 ローム粒・ブロック(φ1~50mm)90%含む。締まり強い、粘性強い。
7. 10YR 4/6 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)90%含む。締まり弱い、粘性強。

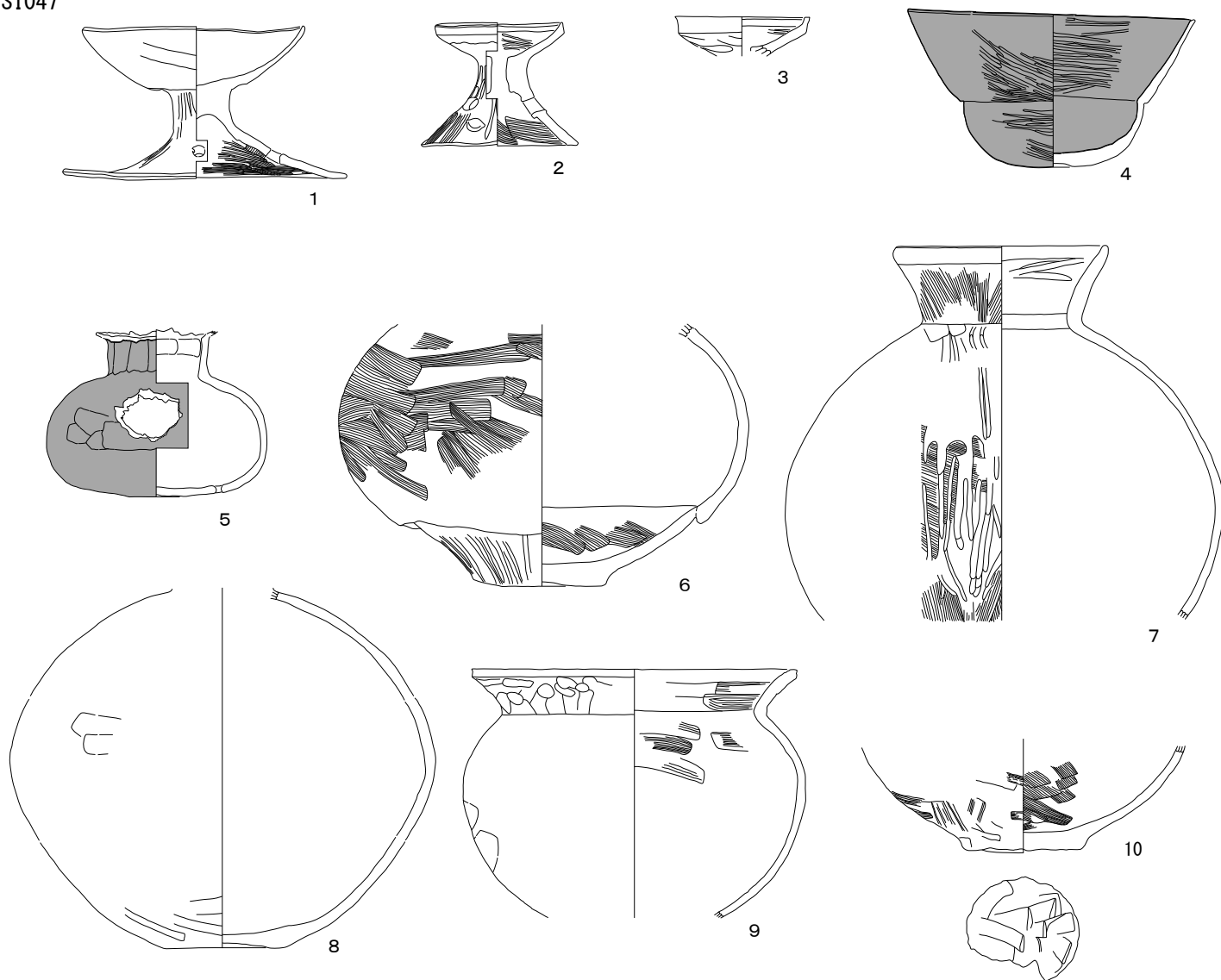
掘方



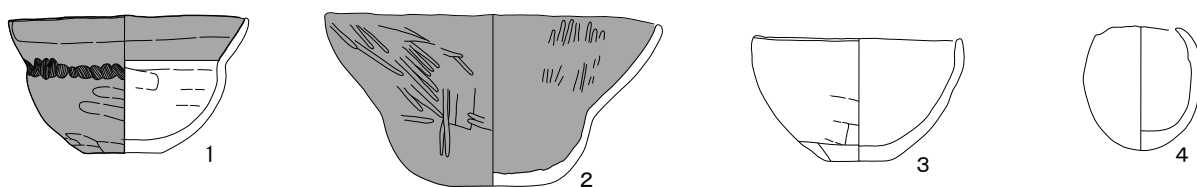
0 (1 : 80) 2m

第16図 古墳時代竪穴住居実測図 SI060

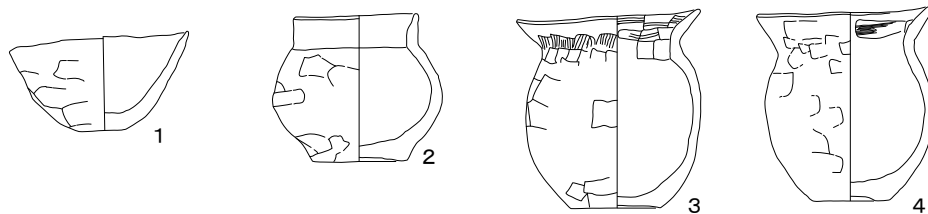
SI047



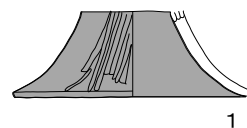
SI048



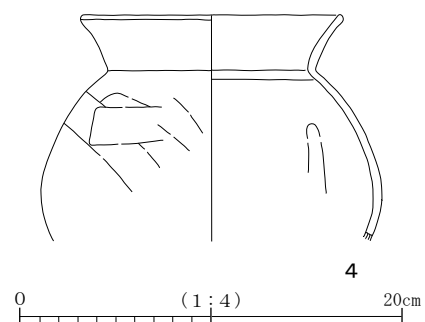
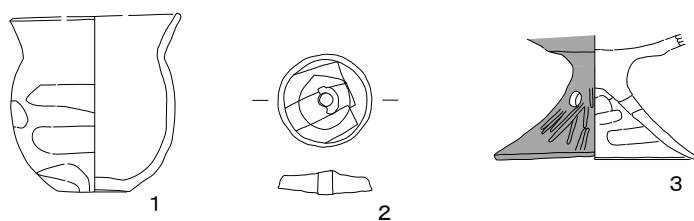
SI050



SI052

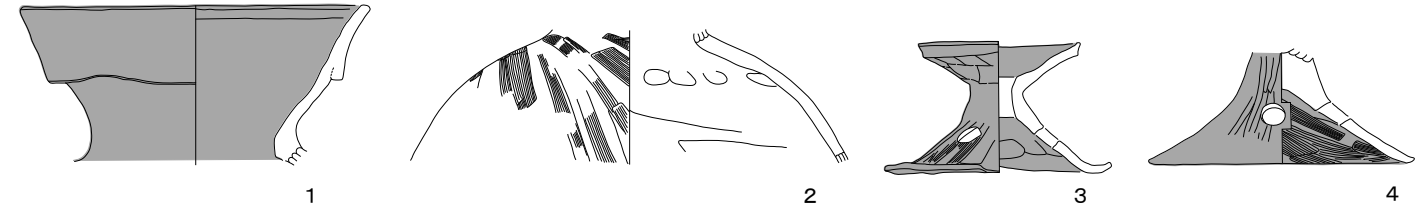


SI053

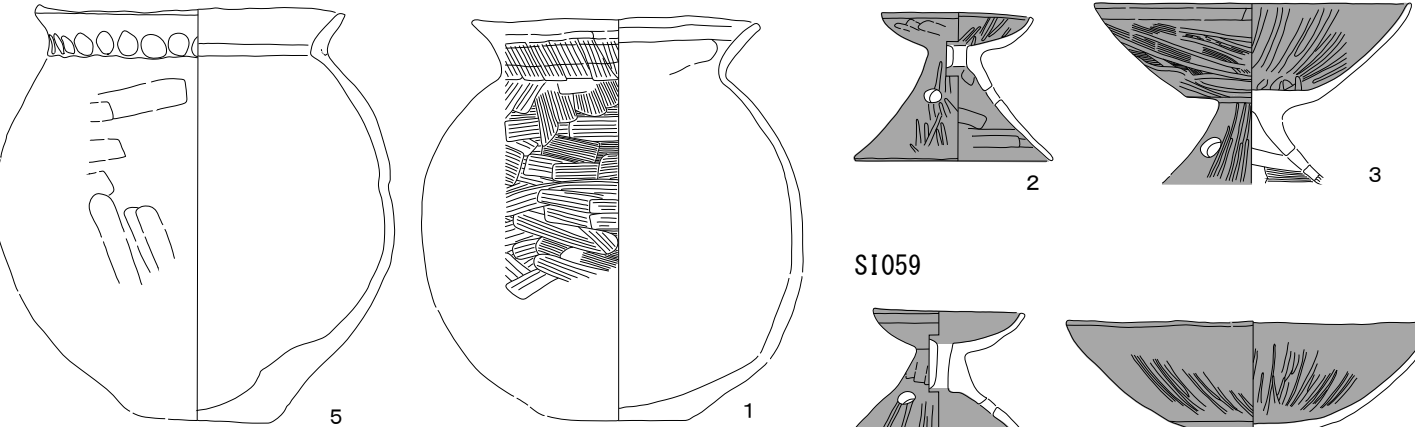


第17図 竪穴住居出土遺物実測図(1)

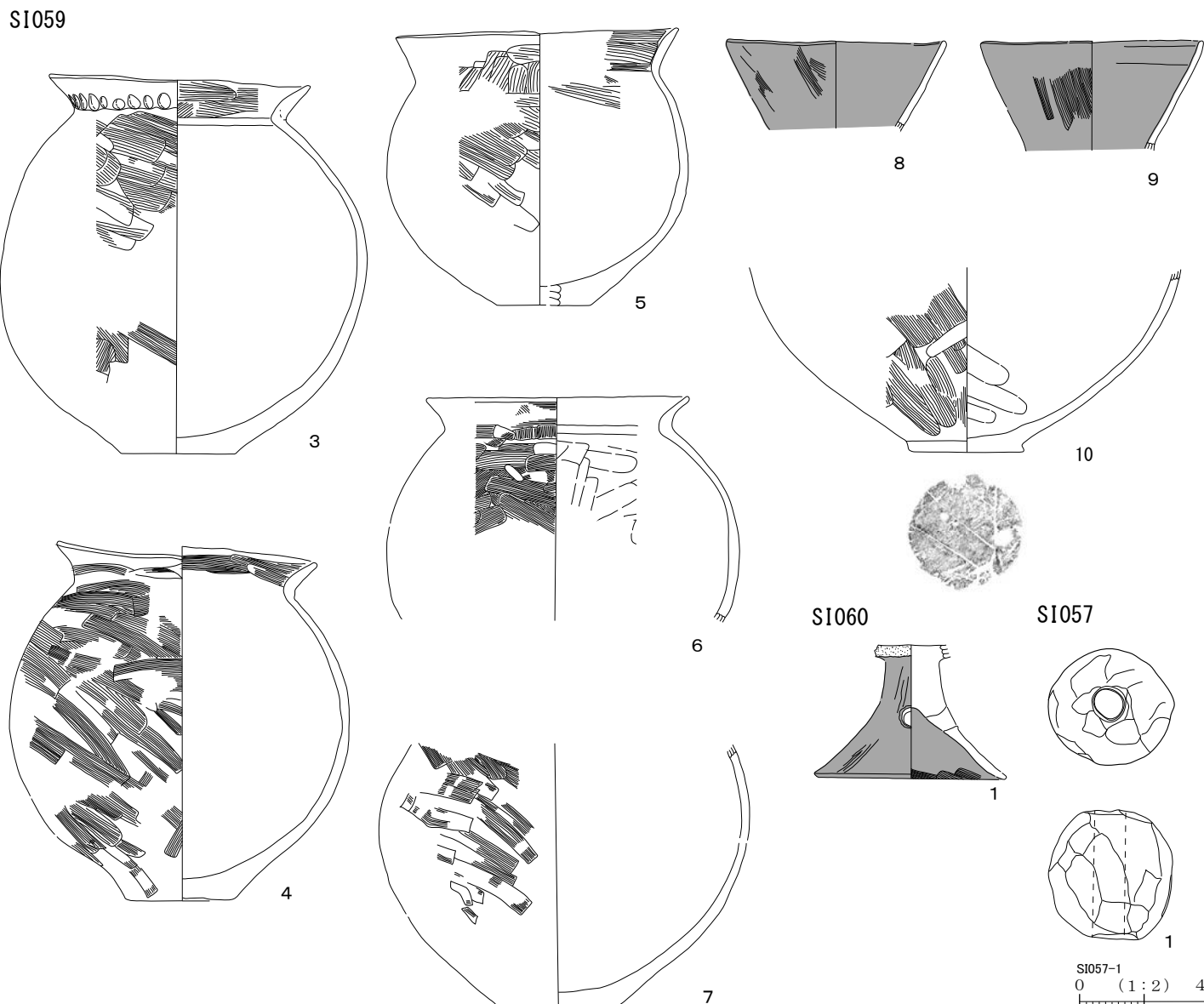
SI055



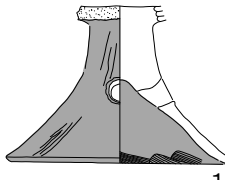
SI056



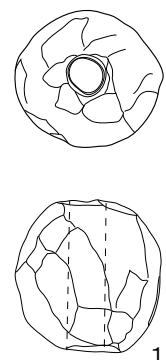
SI059



SI060



SI057



SI057-1
0 (1:2) 4cm

第18図 竪穴住居出土遺物実測図(2)

0 (1:4) 20cm

表 1 竪穴住居出土遺物観察表

遺構番号	遺物番号	器種	遺存度	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	胎土	備考
SI047	1	高坏	70%	13.45	9.40	17.30	暗赤褐色	雲母・白色針状物質・白色粒・砂粒を多く含む。	脚部の穿孔は3か所あり。脚部の外面は縦方向のミガキ。内面は刷毛目調整。
	2	器台	完形	7.70	9.45	7.55	橙色	雲母・白色針状物質・白色粒・砂粒を含む。	脚部の穿孔は3か所あり。器受部外面はヘラナデ、外面は横方向のミガキ。脚部外面は縦方向のミガキ、内面は横方向の刷毛目調整。
	3	器台	30%	8.30	(2.40)	—	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	脚部を欠く。器受部外面は横方向のヘラナデ、内面は斜方向のミガキを施す。
	4	埴(鉢)	90%	17.60	9.70	2.10	赤色	雲母・白色粒・橙色粒・砂粒を多く含む。	内外面ともに横方向に丁寧なミガキと赤彩が施される。
	5	壺	90%	—	(10.40)	3.30	赤色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	底部に穿孔。胴部に故意に開けた穴あり。外面頸部は縦方向のヘラナデ、胴部は横方向のヘラナデ。内面底部に刷毛目調整。
	6	広口壺	80%	—	(16.10)	8.20	赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	胴部下位に段を有する。外面上段は横方向の刷毛目、下段は縦方向のミガキが施される。内面は下部に斜方向の刷毛目が残る。
	7	壺	40%	13.70	(23.00)	—	赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	外面は斜方向の刷毛目の上から縦方向のミガキを施し、内面は口縁部にミガキのようなヘラナデを施す。
	8	壺	30%	—	(22.10)	6.90	橙色	雲母・白色粒・赤色粒・橙色粒・砂粒を多く含む。	胴部が大きく張り出す。外面は横方向のヘラナデ。
	9	甕	40%	20.00	(15.30)	—	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	口縁部外面は中位に輪積を残し、指によるナデで調整する。外面胴部はヘラナデ。内面は横方向の刷毛目調整。
	10	甕	—	—	(6.50)	7.00	橙色	雲母・白色粒・赤色粒・橙色粒・砂粒を多く含む。	底面にヘクスリ痕が残る。内外面ともに刷毛目調整を施す。
SI048	1	埴(鉢)	完形	12.60	7.30	4.10	赤褐色	雲母・白色針状物質・白色粒・赤色粒・砂粒を多く含む。	外面全体と内面口縁部に赤彩を施す。内外面とも調整はヘラナデを基本とするが、外面頸部に縦方向の刷毛目調整が見られる。
	2	埴(鉢)	完形	17.80	9.20	4.10	赤色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	内外面とも赤彩が施される。外面は斜方向のミガキ、内面は縦方向のミガキが施される。
	3	鉢	80%	11.00	6.60	3.10	赤橙色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	外面は横方向のヘラナデを施す。外面に赤彩の痕跡あり。
	4	ミニチュア	100%	4.70	6.50	—	にぶい橙色	雲母・白色粒・褐色粒・砂粒を多く含む。	外面は縦方向のヘラナデ、内面は横方向のヘラナデが施される。
SI050	1	鉢	完形	6.50	5.10	3.20	にぶい橙色	雲母・白色針状物質・白色粒・橙色粒・砂粒を含む。	外面は横方向のヘラナデ。
	2	広口壺	ほぼ完形	6.70	7.80	5.10	橙色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	外面は横方向のヘラナデを施す。
	3	広口壺	完形	9.80	4.80	10.50	にぶい赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	外面頸部に縦方向の刷毛目、内面口縁部・頸部は横方向の刷毛目を施す。外面胴部は刷毛目調整の後、ヘラナデにより刷毛目を消している。
	4	広口壺	完形	9.30	10.20	4.10	橙色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	外面は横方向のヘラナデ、内面口縁部は横方向の刷毛目調整。
SI052	1	高坏	脚部の30%	—	(4.50)	12.70	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	外面は縦方向のミガキ、内面もミガキが施される。内外面とも赤彩が施される。
SI053	1	広口壺	90%	9.10	9.45	3.80	橙色	雲母・白色針状物質・白色粒・砂粒を含む。	外面は横方向のヘラナデを施す。
	2	紡錘車	完形	径5.00	厚1.25	—	橙色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	表面・裏面ともヘラナデによる調整が見られる。
	3	高坏	60%	—	(6.60)	10.70	赤褐色	雲母・白色針状物質・白色粒・砂粒を含む。	脚部のみ残存。脚部穿孔は3か所。外面と坏部内面に赤彩を施し外面はミガキ、内面はヘラナデ。
	4	甕	30%	13.60	(12.00)	—	橙色	雲母・白色粒・赤色粒・砂粒を多く含む。	外面は斜方向・横方向のヘラナデ、内面は縦方向のヘラナデを施す。
SI055	1	壺	30%	18.40	(9.00)	—	赤色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	口縁部から頸部のみ残存。内外面とも赤彩を施す。
	2	壺	10%	8.10	(7.10)	—	暗赤褐色	雲母・白色粒・赤色粒・砂粒を多く含む。	外面に赤彩を施し、外面は斜方向の刷毛目調整。内面は横方向のヘラナデで、上部に指紋が明瞭にわかる指圧痕が残る。
	3	器台	ほぼ完形	8.50	12.00	7.00	赤色	雲母・白色粒・橙色粒・砂粒を多く含む。	脚部の穿孔は3か所。で、裾部は大きく開く。器受部は内外面とも横方向のヘラナデ。脚部外面は縦方向の刷毛目調整、内面はヘラナデ。内外面とも全面に赤彩を施す。
	4	高坏	脚部のみ80%	—	(6.10)	14.00	赤色	雲母・白色粒・橙色粒・砂粒を多く含む。	脚部の穿孔は3か所。で、裾部は大きく開く。外面は縦方向のミガキ、内面は中央から外側へ向かう放射状の刷毛目が残る。内外面とも赤彩を施す。
	5	甕	70%	16.30	21.70	7.30	暗赤褐色	雲母・白色針状物質・白色粒・赤色粒・砂粒を含む。	頸部に輪積を残し、指による押捺痕を施す。外面胴部は横方向のヘラナデ。
SI056	1	甕	80%	15.30	21.40	7.40	橙色	雲母・白色針状物質・白色粒・赤色粒・砂粒を含む。	外面は横方向を基本とする刷毛目調整。口縁部は縦方向の刷毛目調整の後、横方向になっている。
	2	器台	完形	8.00	7.80	10.40	赤色	雲母・白色針状物質・白色粒・赤色粒・砂粒を含む。	器受部外面は横方向のヘラナデ、内面はミガキ。脚部外面は縦方向のミガキ、内面は横方向の刷毛目調整。脚部の穿孔は3か所。内外面とも赤彩を施す。
	3	高坏	70%	16.60	(9.50)	—	橙色	雲母・白色針状物質・白色粒・赤色粒・砂粒を含む。	坏部外面は刷毛目調整の上からミガキを施し、内面はミガキ。脚部の穿孔は3か所。で外面は縦方向のミガキ、内面は横方向のヘラナデを施す。外面には赤彩の痕跡がある。
SI057	1	土玉	完形	3.90	—	3.90	橙色	雲母・白色粒・褐色粒・砂粒を多く含む。白色針状物質を含む。	孔の直径0.90cm表面にはヘラナデによる調整が見られる。
SI059	1	器台	90%	7.90	7.90	10.40	赤色	雲母・白色針状物質・白色粒・赤色粒・砂粒を含む。	器受部外面は横方向のヘラナデ、内面は横方向のミガキ。脚部外面は縦方向のミガキ。脚部の穿孔は3か所。内外面とも赤彩を施す。
	2	高坏	坏部の80%	19.35	(7.10)	—	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	坏部のみ残存。内外面ともミガキと赤彩が施される。
	3	甕	70%	16.20	23.40	7.00	にぶい赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	頸部に輪積を残し、指による押捺痕を施す。外面胴部は刷毛目調整。
	4	甕	90%	16.30	6.80	22.30	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	内外面とも刷毛目調整。
	5	甕	80%	17.40	17.30	5.80	橙色	雲母・白色針状物質・白色粒・橙色粒・砂粒を含む。	内外面とも刷毛目調整。
	6	甕	40%	16.10	(13.90)	—	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	口縁から胴部中位までの残存。外面は横・斜方向の刷毛目調整。内面はヘラナデで、口縁から頸部内面は横方向の刷毛目を残す。
	7	甕	50%	—	(16.60)	7.20	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	外面は斜方向の刷毛目調整。
	8	埴(壺)	30%	13.40	(5.70)	—	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	口縁から頸部のみ残存。内外面とも赤彩を施し、刷毛目調整。
	9	埴(壺)	40%	13.50	(6.90)	—	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	口縁から頸部のみ残存。内外面とも赤彩を施し、刷毛目調整。
	10	甕	30%	—	11.50	6.80	橙色	雲母・白色針状物質・白色粒・赤色粒・褐色粒・砂粒を多く含む。	胴部中位から底部までの残存。外面は斜方向の刷毛目調整。内面は斜方向のヘラナデ。底部は木葉痕を残す。
SI060	1	高坏	脚部の40%	—	(7.70)	12.00	暗赤褐色	雲母・白色粒・砂粒を多く含む。	内外面とも赤彩を施し、外面は縦方向のミガキ。内面は刷毛目調整。

Ⅲ 総 括

1. 縄文時代

縄文時代の遺構は、今回の調査では陥穴1基（SK150）を検出したのみであった。本調査区西側に隣接する第13・14次調査区（以下14区と略）では縄文時代の遺構は検出されず、北西側に近接する第15・16次調査区（以下16区と略）では縄文時代早期炉穴7基・陥穴5基・土坑27基を検出、さらに北側から北東側にかけて展開する第11・12次調査区（以下12区と略）では、炉穴237基・陥穴6基・土坑27基を検出している。また、南側の第10次調査区（以下10区と略）では、陥穴1基を検出したのみであった。

SK150は12区・16区で検出した陥穴同様に、平面が長楕円形で長軸断面がオーバーハングするタイプであり、同一の集団によるものと考えられるが、今回の調査区は12区・16区と異なり、炉穴の検出はなく遺物もごくわずかで陥穴も1基のみであるため、当該集団の活動の中心からは外れていたようである。なお炉穴については12区の西半分で非常に高密度で検出されているものの12区の東半分及び16区では極端に密度が下がる。12区の北西側は、かつて舌状台地が延びていたがすでに削り取られており、縄文時代早期に当地に存在した集団は、12区の西半分とそのさらに西側を生活の中心としていたと推測できる。

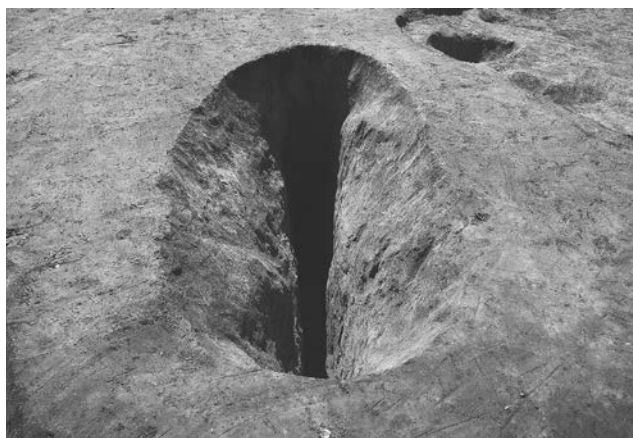
2. 古墳時代

古墳時代前期の竪穴住居は、今回の調査では14軒検出した。これまでに隣接する14区では3軒、12区で26軒、16区で7軒、南側の10区で1軒を検出している。今回調査した14軒は、規模・形状・出土遺物ともに、これまでの調査結果と大きく変わるものではなく、10区を南限とする同一の集落であると考えられる。

竪穴住居は、一辺の長さ6m前後を境として大型（SI048・049・055・057・058・059・060）と小型（SI047・050・051～054・056）に分類することができ、小型の竪穴住居ではSI047以外主柱穴をもたなかった。SI060は床面が軟弱で柱穴プランは明瞭でなく、炉にあたる場所は掘り窪められただけであり、生活痕がみられなかった。なお、SI060は便宜上大型に分類したが6mには達しない大きさで、他の大型住居よりは一回り小型である。SI048・050・055・059の4軒では、床にベッド状遺構が認められ、根太痕跡・貯蔵穴周りの高まりがみられるものがあつた。ベッド状遺構は概ね大型の住居に認められ、大型で床面が失われているSI049・057・058にもベッド状遺構が存在した可能性は高い。また、小型に分類したがベッド状遺構を有するSI050は、他の小型住居が5m未満なのに対し副軸が5m以上なので、他の小型住居とは一線を画する。

今回調査した14軒のうち、6軒の竪穴住居（SI047・048・050・053・056・059）では焼土が検出され、このうちSI059以外の5軒で炭化材も出土している。中でもSI048・053では床全面に焼土が認められ、SI050は壁に沿う形で検出、その他は部分的であった。焼土・炭化材が検出された住居については調査者により「焼失させた住居とも考えられ、遺物出土量の少なさからみると、本調査区からの集落の移動が計画的に行われた可能性が考えられる。」との指摘もあつた。焼土の検出範囲・量も住居によって差があるため一様には言えないが、床全面が焼けている住居についてはその可能性も考えられる。しかし、焼失したのか・させたのか、計画的な移動が行われたのか否かは、他遺跡の事例との比較検討も含め、さらに詳細な分析が必要となるであろう。

写 真 図 版



1. SK150完掘(北→)



2. SI047焼土検出・遺物出土状況(東→)



3. SI047貯蔵穴遺物出土状況(南東→)



4. SI047完掘(南東→)



5. SI048焼土・炭化材検出・遺物出土状況(南東→)



6. SI048完掘(南東→)



7. SI048掘方・SI049完掘(北西→)



8. SI050遺物出土状況(東→)

図版2



1. SI050貯蔵穴遺物出土状況（南東→）



2. SI050完掘（南東→）



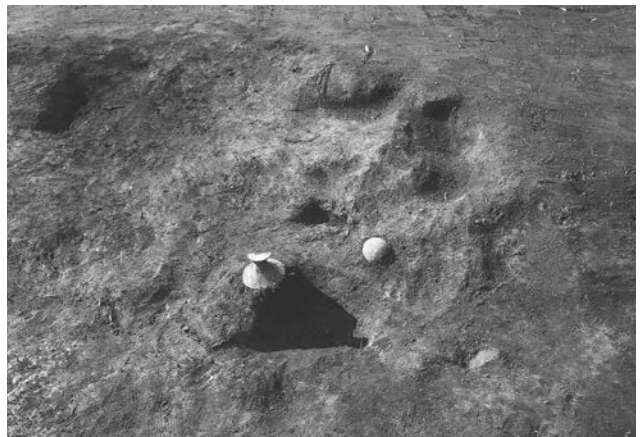
3. SI051完掘（南東→）



4. SI052完掘（南東→）



5. SI053焼土・炭化材検出状況（南東→）



6. SI053遺物出土状況（北西→）



7. SI053完掘（南東→）



8. SI054完掘（南東→）



1. SI055 遺物出土状況(東→)



2. SI055 完掘(南東→)



3. SI056 遺物出土状況(南東→)



4. SI056 完掘(南東→)



5. SI057・SI058 完掘(南西→)



6. SI059 遺物出土状況(南→)



7. SI059 完掘(南東→)



8. SI060 完掘(南東→)

图版 4



SI047-1



SI047-2



SI047-4



SI047-5



SI047-6



SI047-7



SI048-1



SI048-2



SI048-3



SI048-4



SI050-1



SI050-2



SI050-3



SI050-4



SI052-1



SI053-1



SI053-2



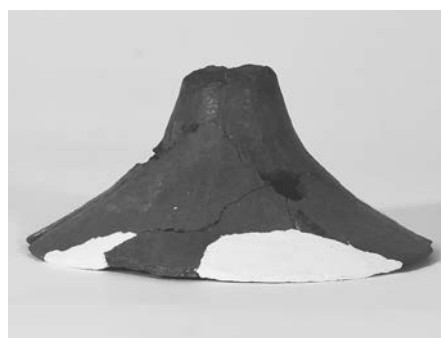
SI053-3



SI055-1



SI055-3



SI055-4



SI055-5



SI056-1



SI056-2



SI056-3



SI057-1



SI059-1



SI059-2



SI059-3



SI059-4



SI059-5



SI059-6



SI059-7



SI059-8



SI059-10



SI060-1

報告書抄録

ふ り が な	ちばけんそでがうらし ちゅうろいせきだい18じはつくつちょうさほうこくしょ							
書 名	千葉県袖ヶ浦市 中六遺跡第18次発掘調査報告書							
副 書 名								
シリーズ名	袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第22集							
編 著 者	桐村久美子							
編 集 機 関	袖ヶ浦市教育委員会							
所 在 地	千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1							
発 行 機 関	袖ヶ浦市教育委員会							
所 在 地	千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1							
発 行 年 月 日	西暦 2014 年 2 月 28 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号 コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ちゅうろいせき 中六遺跡	ちばけん そでがうらし くらなみ 千葉県 袖ヶ浦市 蔵波 あざちゅうろ 字 中 六1,259 番地 3 他	12229	SG013	35° 25′ 47″	139° 59′ 52″	20130117 ～ 20130306	1,200 ㎡	記 録 保 存 調 査
所収遺跡	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中六遺跡	包蔵地・集落跡	縄文時代（早期）、古墳時代（前期）	陥穴 1 基（縄文時代）、堅穴住居 14 軒（古墳時代前期）	縄文土器、古墳時代土師器、土製品	古墳時代前期の堅穴住居には、ベッド状遺構を有する住居や焼土・炭化材を多く検出した住居が見られた。			
要 約	これまでの調査同様に縄文時代の陥穴と古墳時代前期の堅穴住居を検出した。堅穴住居は、北側の第 12 次調査区から本調査区を経由し、南側の第 10 次調査区まで連続する集落を形成していることが判明した。							

平成26年2月21日 印刷
平成26年2月28日 発行

袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書第22集

千葉県袖ヶ浦市

中六遺跡第18次調査発掘調査報告書

－蔵波地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査報告書－

発行 袖ヶ浦市教育委員会
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1
印刷 大和美術印刷株式会社
千葉県木更津市中央1-1-6